教育に新聞を

２０１７年度
大分県ＮＩＥ
実践報告書

大分県ＮＩＥ推進協議会

2017年度大分県ＮＩＥ実践指定校

	学　校　名	学 校 長	実践代表者	新規/継続
通常枠	中津市立山口小学校	中尾　一敏	小洞　純子	継続
	豊後高田市立高田中学校	河野　史武	谷　しのぶ	継続
	中津市立東中津中学校	橋本　和也	金丸　光治	継続
	中津市立豊陽中学校	山香　　昭	岸原　美保子	新規
	竹田市立緑ヶ丘中学校	河野　義文	佐藤　美登里	新規
	大分県立別府翔青高等学校	辛島　信昭	畑野　新司	継続
	大分県立大分舞鶴高等学校	大久保　和弘	小坂　吏香	継続
	別府溝部学園高等学校	佐藤　清信	田中　祐輔	新規
全国大会枠	大分市立寒田小学校	佐々木　和典	後藤　博子	継続
	大分市立鶴崎小学校	佐藤　由美子	本松　健一	継続
	大分市立滝尾中学校	軸丸　秀樹	大戸　宏樹	継続
	大分市立判田中学校	豊田　崇	髙山　利恵	継続
	杵築市立山香中学校	佐々木　潤一郎	釘宮　里枝	新規

ご　挨　拶

大分県ＮＩＥ推進協議会
会長　　堀　　泰　樹
（大分大学教育学部教授）

「2017 年度大分県ＮＩＥ実践報告書」の刊行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

この報告書は、大分県内のＮＩＥ実践指定校 13 校のＮＩＥ実践をまとめたものです。校種別には、小学校 3 校、中学校 7 校、高等学校 3 校となります。新規の指定校は、中学校 3 校、高等学校 1 校となっています。

報告には、子どもたち（教師も含めて）が学ぶ喜びや楽しさを実感する授業づくりの取り組み、また、学ぶ意味や価値、それらを我がものとするための方略や思考スキルなどの充実を求めての授業づくりの取り組みなど、発達段階に応じた新聞を活用した授業づくりの取り組みの内容が簡潔に整理されています。これからの授業実践の構想に際して、新聞を学習材として位置付けた授業づくりの参考にしていただきたいものばかりです。

新聞を授業に活用することには、特別の型があるわけではありません。ともすれば、教科書を使用する授業ですと、「この教材（内容）を教える」という意識が先行してしまい、特定の指導方式を求める傾向が生じ、どのような資質・能力につながる教科固有の知識・技能や思考力・判断力・表現力を育てるかという意識が後退してしまいがちになるようです。

これからの授業づくりに求められているアクティブ・ラーニングの視点に立った授業を考えるとき、新聞記事や紙面にどのような価値を見いだし、学習材化するか。そのためのヒントをこれらの実践報告からくみ取っていただければ幸いです。

フェイク・ニュースという言葉が示しているのは、新聞の持つ言葉の力を認めていることに他なりません。同時に、新聞の言葉への批判的理解・解釈の力を読者に求めるものでもあります。そのためにも、電子媒体ではなく紙媒体の新聞に触れる経験を子どもたちにさせつつ、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりに新聞を活用していただければと考えています。

情報活用能力の育成の面から、新聞を活用することが求められていますが、新聞の持つ言葉の力や表現に学び、自分の思いや考えを共有したり発信したりして、自らの人生を豊かにする良識を育むことも大切です。新聞を多面的に活用していただければと願う次第です。

大分県教育委員会・大分市教育委員会をはじめ、セミナー等へのご支援・ご助力をいただきました大分県立別府翔青高等学校ならびに大分市立鶴崎小学校の関係者の皆さま、さらに「大分県ＮＩＥ実践研究会」を講師・発表者として支えてくださった皆さまに心から感謝とお礼を申し上げます。

今後の大分県ＮＩＥ実践が一層盛んなものになることを祈念しまして、ご挨拶といたします。

目　　次

【会長挨拶】　大分県ＮＩＥ推進協議会長　堀　泰樹　・・・・・・・１

【実践報告】

小　学　校

「自ら学ぶ力を育む授業づくり　～ＮＩＥの良さを日常の授業に取り入れて～」
中津市立山口小学校　教諭　小洞　純子

「全校で取り組む楽しいＮＩＥ」
大分市立鶴崎小学校　教諭　本松　健一

「持続可能なＮＩＥを目指して　～だれもが気軽に、長く続けられるＮＩＥに～」
大分市立寒田小学校　教諭　後藤　博子

中　学　校

「『公の場で通用する人の育成』を目指して」
中津市立豊陽中学校　教諭　岸原　美保子

「生徒が主体的に学ぶＮＩＥの活用を求めて」
中津市立東中津中学校　教諭　金丸　光治
学校司書　髙橋　頼子

「新聞で社会に目を向けよう　～生徒が主体的に思考・判断・表現するために～」
豊後高田市立高田中学校　教諭　谷　しのぶ

「主体的・対話的で深い学びに向かう力の育成　～ＮＩＥの実践から～」
杵築市立山香中学校　教諭　釘宮　里枝

「人権ニュースペーパーを中心としたＮＩＥの取り組み」
大分市立滝尾中学校

「『磨き合う力』の育成　～生徒の主体的・対話的で深い学びの探究～」

大分市立判田中学校　教諭　髙山　利恵

「継続的な新聞活用による確かな学力の定着
　～『ＤＯ緑（どりょく）タイム』を核にして～」

竹田市立緑ヶ丘中学校　教諭　佐藤　美登里

高 等 学 校

「新聞を通して社会と向き合い行動できる生徒の育成
　～ＮＩＥの取り組みを進め、社会的事象に関心を持たせる～」

大分県立別府翔青高等学校　教諭　畑野　新司

「ことばと向き合う、社会と向き合う　～職業観を育てるＮＩＥの実践～」

別府溝部学園高等学校　教諭　田中　祐輔

「新聞を通して考える　社会と自分
　～新聞を進路目標設定（進路学習）に生かす方法を探る・３年目～」

大分県立大分舞鶴高等学校　教諭　小坂　吏香

【大分県ＮＩＥ実践研究会】

【2017 大分県ＮＩＥセミナー】

別府会場＝大分県立別府翔青高等学校
大分会場＝大分市立鶴崎小学校

自ら学ぶ力を育む授業づくり

～ＮＩＥの良さを日常の授業に取り入れて～

中津市立山口小学校　教諭　小洞　純子

１．はじめに

数年前より、子ども自ら学ぶ力（問題解決・情報活用能力など）をつけるためのツールの一つとして、新聞を活用している。

学習内容と自分たちの生活をつなぐものとして、新聞記事を教材化したり、新聞記事を切り口として、単元課題を設定したりするなど、新聞を活用した授業実践に取り組んできた。また、学校司書を中心に、子どもたちが新聞を手に取りやすい環境づくりや、朝のＮＩＥ タイムなどを行い、子どもたちも新聞を身近に感じるようになってきている。

１年間のＮＩＥの実践について、報告する。

２．実践の内容

（１）授業実践

【国語】

○「詩を書いて、新聞に投稿しよう」（２年）

・朝日新聞「小さな目」に投稿することをゴールにし、目的意識を持って意欲的に詩を作ることができた。

○「気になる記号」（３年）

・「洗濯表示記号が国内外で統一された」という記事を紹介。「記号もより分かりやすく変化している」ということを知らせ、他の記号を調べていこうという意欲づけになった。

○「新聞を読もう」（５年）

・新聞の読み方を学習した。その後から、毎朝交代で、気になった記事を選んで、朝のスピーチ（記事の紹介、感想）を続けている。

○「和語・漢語・外来語」（５年）

・新聞記事から探した。

○「春の俳句をつくろう」（５、６年）

・朝日小学生新聞の「春夏秋冬　楽しく俳句」コーナーに投稿することをゴールに設定した。題材は、各新聞記事をヒントに選んでいった。自分の俳句が載っていないかと、毎週楽しみに新聞コーナーを訪れ、目を通す子も出てきた。

○「学級討論会をしよう」（６年）

・朝日小学生新聞の記事より、討論会の議題を設定した。自分の意見の根拠となる資料や、議題に対する反対の意見、賛成の意見について、新聞から探す子もいた。

○「『いっしょに読もう！新聞コンクール』に挑戦しよう」（６年）～意見文～

・「新聞コンクール」をゴールに設定。気になる新聞記事を選び、その記事について考えたことを書く。友達や大人の意見も聞き、自分の考えをまとめることができた。

→県独自表彰「県ＮＩＥ推進協議会賞」に１人が選ばれ、次への意欲づけにもなった。

【社会】

○「くらしを支える自動車工業」（５年）

・社会見学後、学んだことを新聞にまとめた。

○「ごみのゆくえ」（４年）

・ごみ処理の過程を学習する中で、海外のごみ処理の様子を取り上げた新聞記事を紹介した。自分たちの生活の様子との違いに興味を持って、学習を進めることができた。

【理科】

○「天気の変化」（３年）

・新聞に載っている週間天気予想図を活用し、自分たちの生活とつないだ。

【算数】

○「１億までの数」（３年）

・導入で、新聞や広告の中から、大きな数を探した。特に広告は、見やすく絵や写真もあるので、喜んで探すことができ、１億までの数に興味を持つことができた。

・「ニンテンドースイッチの売り上げ台数が新記録」という記事から、問題を作った。
子どもたちは、大好きなゲームのことなのでより意欲的に問題に挑むことができた。また、勉強している大きな数を自分の生活に結び付けて考えることができた。

【体育】

○「リレー～新聞をつかって～」（３年）

・１人が新聞紙をお尻に敷いて、２人で引っ張っていくリレー

・新聞紙の上にボールを載せて、運ぶリレー

→新聞紙は、破れても代わりがたくさんあるので、反省を基に繰り返し試行錯誤ができ、破れずに速くなる方法を工夫することができた。

【総合】

○「コスモス祭りNO.１　大作戦！」（５年）

・地元で行われるコスモス祭りをPRするために、自分たちの取り組みを取材してもらった。

大分合同新聞（朝刊）　2017年(平成29年)10月5日　木曜日

制作したステージの背景絵を持つ5年生＝中津市三光成恒の山口小学校

遊びに来てね
コスモス祭り

中津・山口小の児童がおもてなし活動

中津市の秋の恒例イベント「三光コスモス祭り」（8～29日）を盛り上げようと、地元の山口小学校（中尾一敏校長、152人）がさまざまな活動をしている。期間中は会場に花を紹介する看板を設置したり、手作りのチラシを配布。開幕を前に特設ステージの大きな背景絵を完成させた。（和田利子）

看板やチラシを手作り

祭り仕掛け、八面山近くの大分コスモス園を生かして開催している。今年で11回目。

同校は昨年から本格的に地域を楽しませる取り組みを進めている。

今年は5年生17人が参画。「コスモス祭りナンバーワン大作戦」と名付けて、来園者がおもてなし取り組みを担当。コスモスの種類を紹介する看板や、駐車場と園を行き来する船を過剰にさせないで、川上泰九郎さんと小野寿子さんの作品に続く取り組み。

児童たちは「少しでもきれいなコスモスはもちろん、スタッフの絵や看板などを見て、ぜひ訪れてほしい」と話している。

「クイズ看板」の設置、アンケートや募金活動を計画している。

ステージの背景絵（縦約1・6メートル、横約1・6メートル）の制作は昨年に続く取り組み。

琉球書道がデザインした。担当班を中心に2週間前から作業し、ポスターカラーで描いた絵に折り紙を切り抜いて作ったコスモスを貼って仕上げた。

イベント多彩、8日から

「三光コスモス祭り」は8日、市内の三光成恒・原口地区の転作田を利用した三光コスモス園で始まる。29日まで。

16ヘクタールにピンクや白、黄色など約2800万本が開花予定。花でキャラクターや模様を描くコスモスアートやステージイベント、マルシェ、小型無人機「ドローン」による写真撮影、缶バッジ作り体験など多彩なイベントを用意している。

問い合わせは祭り実行委員会事務局の市三光支所地域振興課（☎0979・43・2050）へ。

○「八面山　PR　大作戦」（４年）

・八面山をPRするCMを作成した取り組みが新聞に掲載された。新聞に載ったことで、子どもたちの自信になり、また頑張ろうという意欲にもつながった。

○「平和のバトン　プロジェクト」（６年）

・修学旅行で調べたことを新聞にまとめ、全校に伝えた。

→県学校新聞コンクールにも出品し、オリジナル部門で入選することができた。

【学活】

○「仲間づくり」（３年）

・新聞の上に何人乗れるかゲームをして、仲間づくりを行った。より多くの人数が乗れるように、声を掛け合ったり、工夫し合ったりして仲間づくりをすることができた。

（２）授業以外での実践

【ＮＩＥタイム】（５、６年）

毎週１回（５年金曜日、６年木曜日）朝読書の時間（10 分）に新聞を読んでいる。本校では、毎月４～５紙配達されてきているので、新聞を１人１部ずつ手にして目を通すことができている。

【ＮＩＥスピーチ】（５、６年）

ＮＩＥタイムに､気になった記事を切り抜き、朝の会で順番に紹介している。

（子どもの声）

・私は、ニュースをあまり見ないけど、朝のＮＩＥタイムでいろいろな社会のことが分かるので、楽しみです。

・気になった記事を切り抜くので、前はちっちゃい記事は目に止まらなかったけど、今はちっちゃい記事でも目に止まって、何分でも読んでいます。

【週末課題】（３～６年）

毎週、ＮＩＥ活用担当が週末課題を作成し、３年以上が取り組んでいる。

・読売ワークシート
・視写（朝日小学生新聞の天声こども語）
・新聞記事を読んで意見文を書く。

【切り抜き新聞グランプリ】（５、６年）

切り抜き新聞に挑戦。切り抜く新聞記事を選ぶために、新聞を読み、自分の考えを持ちながら作品を作り上げていった。

（子どもの声）

・家で新聞をとっていても、これまで読まなかったけど、切り抜き新聞の記事を探すのに家でも新聞を読む機会が増えたので良かった。

【新春図書館くじ祭り】（全校）

～図書委員会の取り組み～

○当日の新聞の中から小学生が出ている記事を見つけ、記事の中に出てくる人物が小学生であることを自分でしっかり説明できたら棒くじが引ける。

○「あたり」が出たら図書館くじをもらえる。

＊新聞に触れる機会を多くするための取り組み

【エコバッグ作り】（全校：希望者）

昼休みに図書館で、新聞紙を使ってエコバッグ作りを実施した。（学校司書）

【ＮＩＥ子ども会議】

６年生の代表が参加。心に残っているＮＩＥの授業や活動、ついた力や役に立ったこと、今後新聞とどう付き合い、将来にどう生かすかなどを話し合った。

３．環境整備

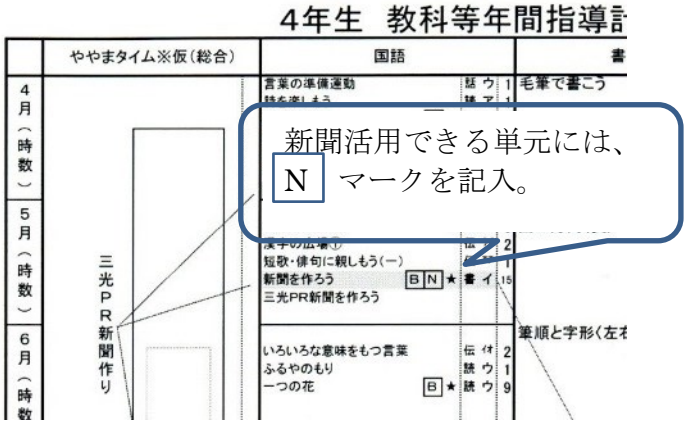
○新聞NIEコーナーの設置

件名ごとに付箋を貼り付け

○企画展示コーナー

○新聞記事のスクラップ

○教育課程への位置づけ



４．成果と課題

（子どもの声）

○この授業（国語：新聞コンクールに挑戦しよう）を通して新聞は面白いと思いました。家でたまにしか読まなかった新聞を、今では気になった記事を切り抜くようになりました。

○ＮＩＥでついた力は、社会のことに興味を持てるようになったことです。毎週木曜日に新聞を読む時間がとても楽しみです。

○家で新聞をとっているが、学校には他の会社の新聞もあって、いろいろな記事が読めて良かったです。

○授業の内容や範囲が広がって、授業が楽しくなりました。

○ＮＩＥの授業で、新聞を読む力がついたと思います。最初は文字や習っていない漢字がたくさんあって読みづらいと思っていたけど、リード文だけを読んで話の内容をつかんだり、習っていない漢字をとばしたりして楽しく読むことができました。

☆子どもたちも楽しくＮＩＥに取り組んでいる。今後も学校司書と連携しながら、授業のツールの一つとして、有効な新聞活用を続けていきたい。

全校で取り組む楽しいＮＩＥ

大分市立鶴崎小学校　教諭　本松 健一

１．はじめに

昨年度までの３年間、全国大会枠の実践指定校として新聞活用の実践に取り組んできた。ＮＩＥ研究テーマを「全校で取り組む楽しいＮＩＥ」と設定し、「新聞を身近に感じ、私たちが暮らしている世の中に関心を持ち、主体的に考え、行動できる子ども」を育てることを目指して、発達段階に合わせた全教科・領域での日常的な新聞活用の実践を重ね、その取り組みを全国大会で報告した。

本年度はこれまでの積み重ねを生かしながら、全国大会後も継続できる日常的な取り組みの在り方を模索していきたいと考えた。そして楽しく新聞活用する雰囲気をより学校全体に広げていけるようにしていこうと、全職員で実践に取り組んでいった。

２．本年度の実践について

（１）新聞の掲示

・新聞閲覧コーナーの整備

・今日の新聞の１面の掲示（毎日届く 3～4 社の１面のコピーを階段壁面に掲示する）

・ＮＩＥコーナーの充実（新聞記事の紹介、児童が作った新聞の掲示など）

（２）新聞を使った取り組み

①朝のＮＩＥタイム（毎週金曜日朝学習）

低学年：新聞紙に親しむ活動、ＮＩＥワークシート

中学年：ＮＩＥワークシート、新聞切り抜き

高学年：新聞スクラップ、コラム視写

※大分合同新聞販売店のご協力による新聞提供

②各学年でのＮＩＥ授業の実践

・校長先生の新聞を活用した授業（６年）

・校内研究にて、６年国語で新聞を活用した授業の実践研究

・４年国語の紙面作り、５年社会情報単元の学習にて、新聞記者のゲストティーチャー

・各クラスでの新聞を活用した授業の取り組み

③校内切り抜き新聞グランプリの実施

・全校で６～７月に実施し、職員で審査し、終業式にて表彰を行った。

・大分合同新聞主催切り抜き新聞グランプリに全校で応募（12～1 月に全校児童で切り抜き新聞に取り組む。）

※学校賞と小学１～３年の部で３年生の児童がグランプリに輝いた。

（３）新聞作り・情報発信の取り組み

・授業で学んだことや考えたことをまとめる新聞作り

・学校・学年行事後の新聞作り

※６年生の修学旅行新聞が、学級新聞コンクールにて優秀賞を獲得した。

・はがき新聞作り

・新聞への投稿～大分合同新聞「読者のページ」

・『ＮＩＥ子ども会議』への参加

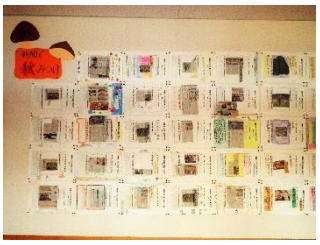
（４）その他、各先生方の自主的実践

・教室掲示での新聞活用

・短学活で新聞記事を基にしたスピーチなど

３．ＮＩＥセミナーの開催（11 月 28 日）

（１）各学年の取り組みの校内掲示



（２）公開授業

・２年１組国語科『お話のさくしゃになろう』
題材名「新聞写真を見て作ったお話を紹介し合おう」

・３年１組国語科『ウ（動きを表す言葉）・ヨ（様子を表す言葉）・モコ（物や事を表す言葉）辞典を作ろう』
題材名「新聞記事から『ウ・ヨ・モコ言葉』を集めよう」

・５年２組社会科『新聞とわたしたちとの関わり』
題材名「新聞とこれからどう関わっていけばいいのか」

４．まとめ

（１）児童へのアンケートの実施とその結果について

２月初め児童にＮＩＥに関するアンケートを行った。【学校での取り組みについて】は全学年、【新聞を活用した取り組みを通して】は４～６年の児童を対象に行った。下記がその結果である。

【学校での取り組みについて】

①　「ＮＩＥコーナー」や「新聞閲覧コーナー」、「今日の新聞の１面」で新聞や掲示物などを読んだことがありますか。（単位は%）

年度	よくある	たまにある	あまりない	ない
2017	２１	５３	１３	１３

②　朝のＮＩＥプリントの取り組みは楽しいですか。

年度	とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
2017	４６	４２	９	３

③　授業での新聞を使った活動や新聞作りは楽しいですか。

年度	とても楽しい	まあまあ楽しい	あまり楽しくない	楽しくない
2017	６５	２８	５	２

【新聞を活用した取り組みを通して】

①　新聞を身近に感じるようになりましたか。

年度	とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	思わない
2017	２７	４９	１９	５

②　世の中のことに関心を持つようになりましたか。

年度	とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	思わない
2017	２７	５０	１９	４

③　自分の考えを持ち、表現するようになりましたか。

年度	とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	思わない
2017	１４	５５	２４	７

（２）アンケートの結果からの考察

新聞に関する掲示が学校中にあふれ、それらを見る姿を多く見るようになってきた。「新聞の学校」の雰囲気づくりにつながっている。

ＮＩＥタイムが定着し、週１回必ず新聞に親しむ機会があり、短い時間でパッとできる活動なので、多くの児童が楽しく思っている。

新聞を使った活動は多くの子どもにとって楽しいと感じるものであることが分かる。特に切り抜き新聞が児童に好評であった。

新聞を活用した取り組みに関しても、目指す子ども像に近づいていると思う。「あまり思わない」「思わない」と答えている子も、自由記述では「新聞を使うことは楽しい」と前向きに捉えていることが多かった。

（３）成果

校内研修で校長を講師に話を聞き、ＮＩＥの基本理念を全体で共有し、スタートできた。また朝のＮＩＥタイムが定着し、さまざまな工夫をした取り組みができている。また、学級でのさまざまな活動や授業で、新聞を活用する雰囲気も広がっている。これまでの積み重ねもあり、全校で先生も子どもたちも楽しく新聞を活用する雰囲気ができている。

子どもたちにとって新聞が情報を得る手段の一つとして認識することができてきた。先生たちも新聞の情報が学校と世の中をつなぎ、主体的で対話的な深い学びにつながることを、取り組みを通して実感してきた。

（４）今後の課題

各クラスで行われている実践の共有化が課題である。分掌会議や校内研修などで情報を交流していきたい。またプリントやデータをまとめて残していき、来年度へつなげていきたい。

持続可能なＮＩＥを目指して

～だれもが気軽に、長く続けられるＮＩＥに～

大分市立寒田小学校　教諭　後藤　博子

１．はじめに

今年度は、昨年度までに本校で形になってきたことを継続できたらと考え取り組んでいる。

年度当初には２回のＮＩＥ研修を行い、ＮＩＥに初めて触れる教員がすぐに始められるよう、昨年度からの流れや今年度の進め方を知らせた。

２．ＮＩＥタイム

（１）教育課程の位置づけ

昨年度から朝活動の一つとして取り組んでいる。第２～第５金曜日に実践している。内容は学年の発達段階に応じて進めている。

（２）第 1～3 学年の実践

【指導の工夫】

・「読売ワークシート通信」を使用し、低学年は漢字に振り仮名があるものの中から興味が持てそうなものを選んでいる。

・難しい内容もあるので、発達段階に応じて質問内容を書き変える場合もある。

・読み聞かせたり、写真を色塗りさせたりすることで世の中の情報を知らせている。

【成果と課題】

○１枚のワークシートの思考の流れが「簡単に読み取れること」「少し考えて読み取ること」「自由な発想で考えること」という３段階の形式になっているので、子どもたちに読解力をつけられる。

○低学年の子どもたちは、この時間を楽しみにしている。

△中学年では少数だが、興味がのらなかったり苦手意識があったりする子どももいたので、来年度の取り組みを話し合う必要がある。

（３）第 4～6 学年の実践

【指導の工夫】

・「朝日天声こども語」の視写をしており、10分以内を目指している。

【成果】

○記事の内容を読み取る力はもちろん、この記事を話題に話す力や語彙力も増えている。

○家庭で新聞をとっていない子どもの感想に、「今まで新聞を目にする機会が少なかったが、図書館の新聞を読むようになった」とある。

３．ＮＩＥ実践授業

（１）教育課程の位置づけ

昨年度末にカリキュラム化されたＮＩＥ年間計画を作成しており、教育課程には紙面として掲載している。パソコンの共通フォルダを開くと、月ごとに示された指導案も開くことができる。それらを基に気軽に実践できる仕組みができている。

今年度は、その指導案を実践して、新たな方法があれば書き変えていくようにしている。さらに、新しい教科・内容でＮＩＥ実践ができた場合には書き加えるようにしている。

（２）第１学年の実践例

国語「お気に入りの新聞写真をお友だちに紹介しよう」

【指導の留意点】

・気になった新聞写真をたくさん集めさせる。

・ペアトークを充実させる。

・発表時はＩＣＴを活用する。

【評価】

・お気に入りの新聞写真を集めることができる。

・好きな理由を書いたり話したりできる。

・写真からイメージを広げ、絵や吹き出しを書くことができる。

・ペアトークや全体発表で紹介することができる。
・友達の発表に対して反応し、質問や感想を話すことができる。

【成果】

〇子どもはどの活動にも興味を持って喜々として取り組む姿が見られる。

〇新聞写真の持つ力があるので、子どもたちは自分の選んだ写真からどんどん思いを膨らませ、もっと描きたい、もっと書きたいと次々と絵や吹き出しに言葉を書き進めた。書くことが苦手な子どもも、積極的に取り組めた。

〇書いたもの描いたものに自信を持ってお友達に伝えようとする姿が見られた。質問や感想を言い合い、ペアトークが続く様子も見られた。

（３）第２学年の実践例

生活「そう田のまちのすてきを知らせよう」

【指導の留意点】

・自分たちの住む町をよく知るために、学年で行った見学や質問以外にも、個人で取材を経験させる。
・学校では、個人が調べたことを１枚の新聞にまとめさせる。新聞の形式を意識させ、一番知らせたいことを「頭」部分に書くこと、２段目に取材して分かったこと、３段目に自分の感想と指定して書かせる。
・それを基に同じ場所や似た場所を調べる。子ども同士で、自分の書いた新聞を持ち寄り、模造紙に貼って交流させ、共通点やお薦めを書かせていく。

【評価】

・記事を書くための取材ができる。
・書きたいことの順位を決めて書くことができる。
・自分や友達が書いた記事の共通点や相違点を見つけることができる。
・友達にも、自分が調べた店や施設の良さを知らせることができる。

【成果と課題】

〇今回は実際の新聞を読み取る活動ではないが、新聞の仕組みや見方を知ることにつながったと思う。

〇新聞を書く時には、たくさん取材することを経験させられた。

△意欲づけのために導入で、寒田のことが載っている新聞記事を活用すればよかった。

（４）第３学年の実践例

道徳「ありがとう」を 100 回言おう

【指導の留意点】

・未修の漢字に読み仮名を振った記事を印刷し、拡大コピーをして読みやすくする。

【評価】

・周囲の人々や物事のおかげで、自分が元気で生きていられることに気付くことができる。
・周囲の人々や物事に自分なりの言葉で感謝を伝えることができる。

【成果】（子どもの感想含む）

〇「最近、ありがとうを言うことがなかったから今度からたくさん言いたい。」

〇「自分がありがとうを伝えることができてよかった。これからも続けたい。」

〇「友達のありがとうも聞けたので、うれしい気持ちになった。」

〇どの子どもも「ありがとう」の気持ちを持ってカードを書くことができた。「ありがとう」の言葉を伝え合うことによって互いにうれしさや優しさを感じ、温かい気持ちになれることを実感できた。

（５）第４学年の実践例

国語「接続語」

【指導の留意点】

・自分たちが普段の生活の中で使っている接続語と結び付けながら考えるようにする。
・見つけた接続語を使って、自分で文章を作らせる。

【評価】

・接続語を見つけることができる。
・意欲的に調べることができる。

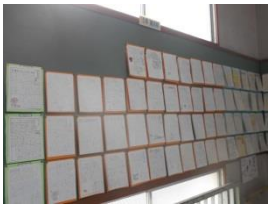
【成果と課題】(子どもの感想含む)
○「たくさんの接続語を知ることができてよかった。」
○「教科書に載っていない接続語を見つけることができてよかった。」
○子どもたちが真剣に新聞を読んでいた。
△今回「GODO ジュニア」を使って取り組ませたが、個人差があるので、普通の新聞を使ってもできそうだ。

（６）第５学年の実践例
道徳「ノーベル平和賞　国際 NGO『ICAN』」
(朝日小学生新聞 2017 年 10 月 8 日引用)
【指導の留意点】
・日本政府はなぜ、核兵器禁止条約に参加しないのか考えさせ、「日本はこのまま参加しなくていいのか」という課題を問う。
・良い悪いのどちらかにまとめるのではなく、核兵器のない世界を実現していくことの難しさ、努力していくことの大切さを感じ取らせたい。
【評価】
・記事を読んで、核兵器禁止条約についての情勢、日本の立場や核廃絶に向けて活動している人たちがいることを知る。
【成果】(子どもの感想含む)
○「国際 NGO『ICAN』が核兵器禁止条約の成立に頑張っていることが分かった」
○核弾頭の保有国や保有数を知る機会となった。
○５年生には少々難しい内容であったが、核廃絶のために努力をしている人々がいることを知った。

（７）第６学年の実践例
特別活動「日本国憲法を取り巻く動き」
【指導の留意点】
・中立の立場で双方に意見が同等に記載されている記事を選び、どちらがよいというまとめをしないようにする。
・さまざまな意見があり、論議されていることや、それぞれの立場の意見を知ることにねらいをおく。
【評価】
・記事を読んで日本国憲法の改正について、賛成や反対の意見があることを理解する。
【成果と課題】(子どもの感想含む)
○「５月３日の憲法記念日に、憲法についての論争があることを初めて知った」
○「これから、新聞やテレビを注意して見てみようと思う」
○新聞の記事が、じっくりと読み考えられる、分かりやすいものだった。
△両方の意見が公平に取り上げられている記事に出合わせないと、間違った考えや先入観を持ってしまいそうなので、記事選びを慎重にしたい。

（８）少人数算数の実践例
算数「割合」
【指導の留意点】
・新聞記事や広告にある百分率や歩合を表す数字を使って、割合の問題を友達と解き合う活動を通して、理解の定着を図る。
・苦手意識が少しでも薄れるよう楽しく活動させる。

（９）委員会の実践例
人権平和委員会
【指導の留意点】
・「朝日小学生新聞」などを利用し、例を示して切り取らせる。
・グループを作り、「子どもの貧困」「違いを大切に」「戦争」などのテーマを決めさせる。
・自分の感想を書かせる。
【成果と課題】(子どもの感想含む)
○「楽しく取り組めた」
○「世界でこんなことが起きているのかと驚いた」
○新たに知ったこともあり、意欲的に取り組んでいた。
○人権・平和に対する意識が高まった。
△指導する側の準備が必要である。



4. ＮＩＥの作品や応募

（１）はがき新聞

低・まだ使用していない。
　・学年が上がったら書くことを意識して、行事の後に絵日記を書く内容を新聞形式に書いている。
中・8㎜サイズのものを使用している。
　・１カ月に１回のペースで取り組んだ。
　〇良い作品を見合ったり、手本になる書き方を示したりすることで、少しずつ分かりやすい新聞になってきた。
高・6㎜サイズのものを使用している。
　・単元の終末にまとめとして新聞に書かせている。
　〇見出しや記事のまとめ方がうまくなってきた。
　〇班で交流の際、質問タイムを設け楽しく交流できている。

（２）「いっしょに読もう！新聞コンクール」

低・夏休みの希望課題として紹介した。
中・課題の説明をし、夏休みに取り組ませた。
高・新聞が欲しい子どもにあげ、夏休みの課題にした。
　〇親子で話す良い機会となった家庭もある。

（３）GODOｼﾞｭﾆｱ「吹き出しバトル！」

低△写真のシチュエーションが捉えにくい様子だった。
　△まだ面白さが分かりにくい。
中〇ワークシートが配布されたので、毎回ほぼ全員が応募した。
　〇入賞者も出て皆意欲的に取り組めた。
高〇希望者対象で、取り組む児童は楽しんでいる。
　〇クラスの中で「横綱」になった子どもも出て後に続きたいと思っている。
　△ワークシートだと白黒で写真が分かりにくい。

（４）「おおいた切り抜き新聞グランプリ」

低・PTA で保護者にも呼びかけ、自由課題とした。
　・２学期中に指導したが、使った新聞を書くことが難しいので、希望者は冬休みの課題にした。
中・３学期になって学年で取り組んだ。
　・見栄えを考え、カラー写真や大見出しの文字などを選んで活用した。
　・冬休みの課題として取り組ませた。
高・冬休みの課題として扱った。
　・新聞をとっていない家庭もあるので、欲しいものを持って帰らせた。
　〇切り取ることでいろいろな面を読むことができた。

５．環境整備

・新聞は、教室に常時置いている。
・全員がたくさん使う時は、家からの持ち寄りを頼んでいる。
・中学年に配布している「GODO ジュニア」は教室にも掲示している。
・新聞をとっていない家庭もあるので、家で取り組ませるときは持ち帰らせている。
・作品はファイルにまとめている。
・高学年は、朝の会でニュースの紹介をしているクラスもある。

６．終わりに

３学期、来年度のことも視野に入れてＮＩＥの取り組みについて話し合った。

ＮＩＥに実際に取り組んでいくと、子どもは新聞に興味を持つことができ、自分から新聞を開く姿が見られるようになった。そして、世の中の出来事に敏感になり、詳しくなった。さらに、書く力、読解の力は前よりついてきた。それは、寒田小学校の自慢だと子どもたちは思っている。

家で新聞をとっていない家庭が多く、新聞に触れさせることはこれからも必要だという結論に至った。

来年度は、もっとスムーズに子どもも教師も楽しめるＮＩＥになればと願っている。

「公の場で通用する人の育成」を目指して

中津市立豊陽中学校　教諭　岸原　美保子

１．　はじめに

本校は、「公の場で通用する人の育成」を学校目標に掲げ、重点目標を「自らの人生を切り拓くための『学力保障』」としている。授業においては、研究テーマを「生徒がいきいきとがんばれる魅力的な課題設定の工夫」とし、「協働」「教科の本質」「図書館活用」をキーワードにして取り組んでいる。授業を、教科書教材を使用するのみにとどめず、図書館資料を活用して進めることは、さまざまに選択肢が広がり、生徒の思考力・判断力の向上に役立つと考え、図書館活用を推進していく。

本年度ＮＩＥ実践校の指定を受けたことをきっかけに、研究テーマを達成し授業改善をしていく手立ての一つにＮＩＥを位置付けて、できるところから段階的に実践に取り組んでいきたいと考えた。

２．　実践の内容

（１）各学年の目標

1 年生・・・新聞に親しみ、興味・関心を持って新聞を読もうとする

2 年生・・・新聞を読むことで、さまざまな社会現象に出合い、興味・関心を持つ

3 年生・・・新聞を読み、読解力、思考力を育て、言語活動を充実させる

（２）新聞を活用した授業・活動

〇毎週のＮＩＥタイム

（1 年：金曜日、朝読書の時間

2 年：月・水曜日、学びタイムの時間）

・ワークシートの読み取りや、意見交換などの班活動、視写などに取り組んだ。

〇道徳

・生徒の実態に合った記事を探して教材とした。記事を読み、友達と意見交換することで、考えを広げる活動に取り組んだ。

・「出会い」について（1 年生）

・友達関係を考える（1 年生）

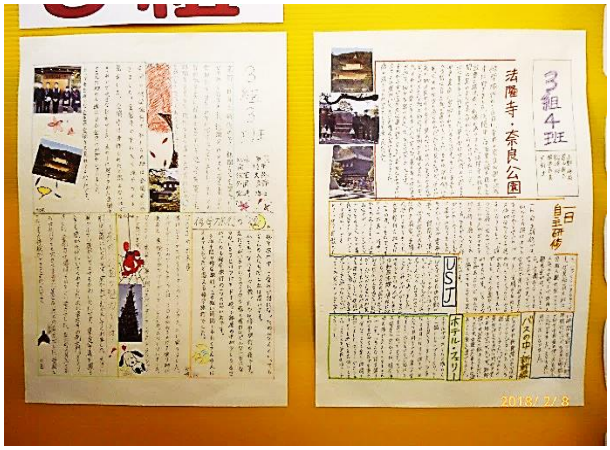
・チビリガマを荒らした行為について（1 年生）

〇総合

・調べ学習で得た情報を壁新聞にまとめ、発表する活動に取り組んだ。（1 年生）

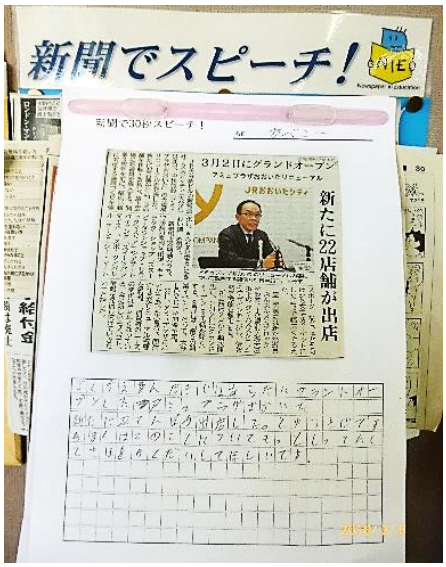
・職場体験学習のまとめを事業所ごとに壁新聞にまとめ、掲示し、発表する活動に取り組んだ。（2 年生）

・修学旅行の思い出を新聞にまとめ、掲示し、発表する活動に取り組んだ。（2 年生）



〇学活時のスピーチ活動

・毎日一人ずつ、自分の興味のある新聞記事を題材にして、スピーチ原稿を作り、クラスで発表する活動に取り組んだ。（2 年生）



〇国語

・情報単元「情報の集め方を知ろう」

「新聞の紙面構成の特徴を知る」

実際に新聞の 1 面記事を見ながら、紙面構成の学習をした。（1 年生）

「幻の魚は生きていた」

発展教材としてクニマスが載った新聞記事を用いた。（1 年生）

・「多様な方法で情報を集めよう」という単元で、新聞から情報を集める学習をした。（2 年生）

・「生物が記録する科学」

発展教材として、ペンギンにカメラを取り付けた「バイオロキング」の新聞記事を用いた。（２年生）

・天声人語ワークシートや、新聞各社のワークシートなどを用いて、読解問題を解いたり、記事の内容について自分の意見を持ち、友達と意見交換したりする活動に取り組んだ。（3 年生）

（３）学校司書との連携

授業者が授業の構想や必要な資料について相談し、学校司書が授業内容に合った的確な資料を収集し、必要枚数準備している。司書の豊富な資料収集が、授業の幅を広げることに役立っている。また、学校司書同士のネットワークが充実しており、必要な記事がない場合は、他校や市立図書館から借りたりもできる。新聞作りに必要な資料も、学校司書が取り寄せることができ、授業者のサポートをしている。

また、図書館内に新聞コーナーを設置し、記事を見つけたらおみくじを引かせたり、記事のスクラップをしたり、新聞記事に親しむ活動を仕組んでいる。

３．　環境整備

ＮＩＥ担当、学校司書、生徒会図書広報部を中心に、全校生徒が新聞に親しめる環境をつくっている。

新聞コーナーの設置

①毎日、各学年の廊下の掲示板に、新聞３紙のトップ記事をコピーして掲示している。

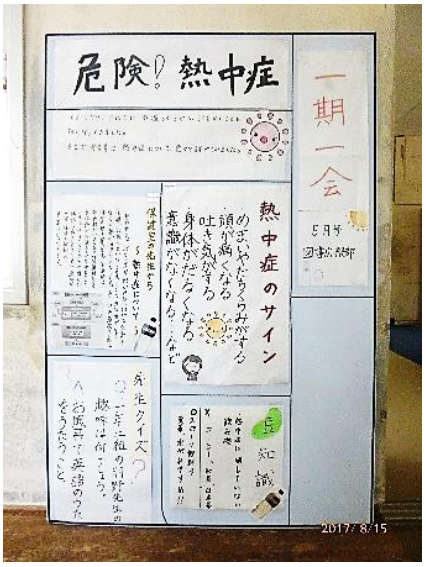
②渡り廊下に、閲覧用の新聞を配置し、気軽に閲覧できるようにしている。

③図書館内にも新聞コーナーを設置している。当日を含めて５日分を配置し、振り返って記事を読めるようにしている。

④図書館内では、新聞記事に親しむ活動を仕組んでいる。新聞記事を置いておくだけではなかなか読まない生徒がいるので、「中学生　見っけ！」（中学生に関する記事を一つ見つけたら１回おみくじを引き、当たりが出たらブックカバーをプレゼントする。※おみくじは１日１回まで）という仕掛けを仕組んだ。

⑤新聞記事のスクラップを、図書館に保管するだけではなく、一部は自由に見られるように廊下に設置している。2年生はそこから自分の興味・関心を引いた記事を自由に選び、学活のスピーチの「ネタ」として使用している。

⑥図書広報部の生徒が、月に1度、壁新聞を作成し、図書室前に掲示している。



４．　成果と課題

ＮＩＥタイムについては、生徒によっては「面倒くさい」「読み取りが難しい」という反応もあるが、「日頃自分では読まない記事が読めるのでよい」「世の中のことを知ることができる」「視写すると落ち着く」「家でも新聞を読むようになった」という、プラスの反応を示す生徒も増えてきた。

まずは、「ＮＩＥ」という言葉が教職員や生徒に浸透し、新聞を身近に感じることができるような環境整備から取り組んでいった１年であった。授業実践については、新聞を活用しやすい教科と、取り組みが進まない教科とがあった。全ての教科で実践を行うことは難しかったが、今後も、学校司書と連携を取りながら、授業やその他の活動に、気軽に新聞を活用してみようという雰囲気を高めていきたいと考えている。

生徒が主体的に学ぶＮＩＥの活用を求めて

中津市立東中津中学校　　教　　諭　　金丸　光治
学校司書　　高橋　頼子

１．はじめに

本校はＮＩＥ実践指定校となり３年目を迎える。初年度は、ＮＩＥとはどのようなものなのか、教職員全員で研修を積み重ねた。時間の設定や取り組みの内容等について、学校司書との連携の下、本校で取り組めるものからスタートした。

２年目は、ＮＩＥタイムをアクティブラーニングの有効なツールとして活用するなど、生徒の主体的な学びを生み出すことに重点を置いた。

３年目の今年は、個々のできる内容を深めることを目標に、学年間、教科間の系統性を意識して実践を行った。

２．実践計画

①ＮＩＥ実践計画の作成
・学年ごとに、つけたい力を明確にし、取り組み内容を提案
・情報の共有を図るために、壁新聞などで交流
②授業での新聞の活用
・学校司書と連携した授業づくり
・新聞を使っての各教科の取り組み
③学校図書館を中核とした環境整備
・学校司書が中心になり環境整備として、各紙の１面を生徒昇降口に掲示。また、旬の記事を廊下、階段などに掲示
・生徒会広報図書部生徒の活動として、日々の新聞を掲示
・生徒による新聞作成

３．実践状況

（全校の取り組み）
東中タイム　毎日（13:30～13:45）を活用
※各学年で計画的に行う。

（１年生）
◎新聞記事のワークシートの取り組み
◎新聞コンクールに向けて、記事の持ち寄りをする
（２年生）
◎新聞記事のワークシートの取り組み
・１学期は英語文に親しむ
◎新聞に親しむために、「今日のニュース」をみんなに知らせる
・生徒が自ら選んで発表していく
（３年生）
◎コラムの視写
◎新聞記事のワークシートの取り組み
◎時事問題を使って自分の思い･考えを書き、発表をしていく（紙面や新聞など）

４、実践例（教科・学級の活動から）

◎社会科（公民分野）授業①

〔ヒアリについて、紙面での意見交換〕
・既習事項である「グローバル化」「情報化」「少子高齢化」について、新聞記事をみんなで読みながら分類していった。そして、互いに意見交換した。

・「グローバル化」の話題として【ヒアリ】の記事を取り上げ、「グローバル化」の課題について自分の意見をまとめた。壁新聞にして意見の交流をした。

※校区内でヒアリの発見があったためタイムリーな記事となった。身近な社会的事象について考えを深めるきっかけになったと考える。

◎２年生（学級の活動）

・毎日の新聞記事から、生徒が「一押しの記事」を紹介していく。そして、いつでもみんなが見返すことができるように、掲示した紙面をまとめていった。

※特に気になった記事については、今までの新聞記事を学校司書と連携して、探してまとめた。生徒の思いが広がりを見せた活動だった。今後も主体的な活動ができるサポートをしていきたいと考える。

◎切り抜き新聞づくり

・２年生、３年生を対象にして切り抜き新聞を作成した。興味関心のある記事を自由に探し、レイアウトをしていくことで、いろいろな発想や思い、考えが表現され、素晴らしい作品が完成した。

〔作り方の順序・ルールを示す〕

⑴「テーマ」を何にするか考える

⑵時間を決めて取り掛かることの確認

〔「テーマ」を何にするのか新聞を読む〕

⑴ 好きなこと、気になる出来事

⑵ 伝えたいこと、知らなかったことなど

◎国語の授業（１年生）

・夏休みを利用しての、親子での取り組みを実施した。

① 読み取る力

② 意見を読み、考える力

③ まとめる力

初めての取り組みで、戸惑いもあったが、ていねいに仕上げることができた。そして、成果を発信するためにコンクールへ応募した。

◎社会科（３年生公民分野②）授業

・今回の総選挙が公民分野の学習と一致したため、毎日の新聞から情報を収集し、【今の日本】について考えを深めた。

〔投票結果・10 月 23 日朝刊を一斉購読〕

〔見出しから「テーマ」を考えた。これからの日本について考え、紙面発表する〕

５．環境整備

◎総選挙の報道が始まってからは、新聞の閲覧場所を学校司書と相談して、生徒の昇降口にも設置し、登校してから、すぐに見られるように配慮した。「安倍首相が言いよった」「〇〇が勝つて言いよった」「小池さんが、◇◇をするって」など、生徒の会話が聞かれた。

〔生徒の昇降口に新聞閲覧台を設置〕

通常は図書室前に並べているが、生徒の目に触れる機会を増やすために総選挙から増設した。

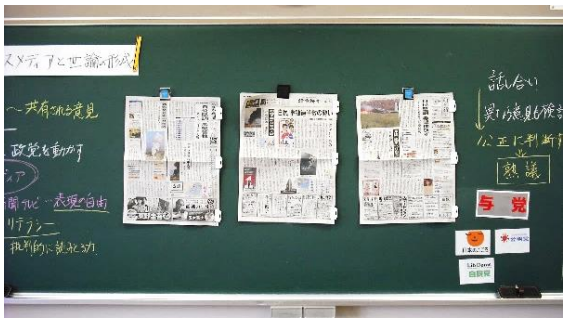
◎2 年生の学級活動で製作された「今日の出来事」をまとめたスクラップブック。関心のあるものをいろいろ工夫しての一冊になっている。

〔修学旅行・私だけのはがき新聞〕

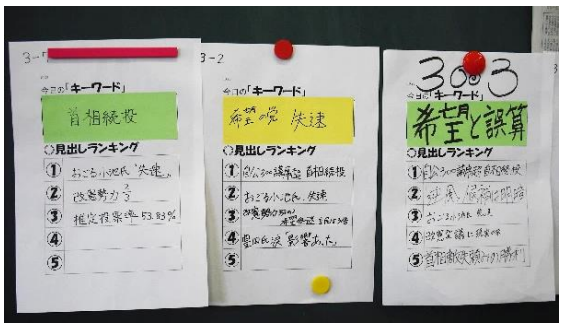
◎自分の思い出を自分新聞として、「はがき新聞」にまとめた。数年後に届くのが楽しみな企画となった。

◎視写の取り組みとして、「東西南北書き写しノート」を採用した。

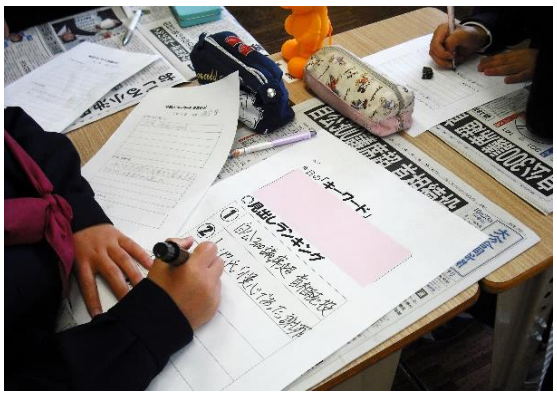
６．成果と課題



〔情報を見比べながら、紙面を比較する〕



〔発表会で違いを認め合う〕



〔考えを出し合う共同学習〕

◎成果

- 本年度は学級活動や教科の授業といろいろな場面での取り組みが実施され、生徒の新聞に対する関心度も大きくなってきた。
- はがき新聞や壁新聞などの成果物を一つの作品として完成させ、公開することで、いろいろな意見を知ることができ、自分の意見に自信が持てることが多くなった。また、自分の言葉を文章にまとめることが比較的スムーズにできるようになってきた。
- 作品の校外への出品も多くなった。作品の評価で生徒の制作意欲も確実に大きくなった。
- 総合学習の時間で学んだことや職場体験などで感じたことを壁新聞で発表した。

〔作品展示会場（切り抜き新聞）〕

◎課題

- 今年は教科での取り組みが多くなり、いろいろな作品ができたが、これらを次に生かすために、より細かな計画立案が必要になってくる。授業時間や教育課程との関わりを明確にしながら進める必要がある。
- ただ新聞を読むという段階から、何を学び、何を考えさせるのか、学年や教科ごとの「ねらい」を明確にしていく。
- 生徒の主体的な活動を促すために、いつでも手元にそろう新聞と、活用リーダーの育成が求められる。
- 図書館との連携は無くてはならないものである。連携を密にしながら常に情報交換することが大切である。

新聞で社会に目を向けよう

～生徒が主体的に思考・判断・表現するために～

豊後高田市立高田中学校　教諭　谷 しのぶ

１．はじめに

本校は2011年度からＮＩＥの取り組みを行っている。学校教育目標に「優れた知性・豊かな心･健やかな体をそなえ､夢や希望に邁進し、郷土・豊後高田を愛する生徒の育成」と掲げ、「夢を持ち、将来に果敢に挑戦する生徒」、「基礎学力を有し、体力的にも精神的にも粘り強い生徒」、「人に優しく、郷土・豊後高田を愛する生徒」を目指す生徒像としている。

そこで、生徒が主体的に考えて表現し、協働して学び合うような「学びの場の工夫」の一つとしてＮＩＥ活動を位置付け、授業に限らずさまざまな場面での新聞活用を進めてきた。

２．実践

（１）「ＮＩＥの時間」の取り組み

毎週木曜日に「ＮＩＥの時間」を設定し、45分間の活動を行っている。全学年で１年を通してワークシートと新聞コラムの視写に取り組み、新聞を読むこと、記事について考えることを習慣付けるようにしている。

継続して取り組むことで、記事を読むスピードが早くなったり、より深く考えることができるようになったりと新聞に慣れ親しむ姿が見られるようになった。また、全校で同じワークシートに取り組んでいるので､生徒からは｢普段、自分が新聞を読む時にはあまり読むことのないような内容の記事を読むので面白い」といった声が聞かれている。

（２）授業での取り組み

① 国語「大根は大きな根？」野菜新聞作り

各教科で新聞を使った授業の取り組みをしている。１年生の国語科では｢大根は大きな根？」の学習において、学校図書館と連携し、自分たちが調べたことを班ごとに新聞にまとめ、みんなに知らせるという取り組みを行った。新聞作りをする上で、大分合同新聞やその他の新聞の見出しを参考にしたり、どんな記事の割り振りをしているかを確かめたりした。そこから読んでみたいと思わせるための見出しの工夫や調べたことをより分かりやすく伝えるための工夫などを話し合いながら作り上げた。また、互いに作った新聞を見合いながら、レイアウトや文字の大きさ、形などの工夫にも目を向けることができた。

② 特設授業「伝える戦争の記憶」

特設授業として、新聞記事を使った平和授業を行った。大分合同新聞に掲載された豊後高田市在住の芳本清一郎さんの「伝える戦争の記憶」を読み、ワークシートで学習。その後、芳本さんを招き、戦争の体験を語っていただいた。

記事には書かれていなかった詳しい話や芳本さんのより深い戦争への思いなどを聞き、平和について真剣に考えることができた。また地域に住んでいる芳本さんの新聞記事を読むことで、新聞を身近に感じることができた。

（３）専門部（広報部）での取り組み

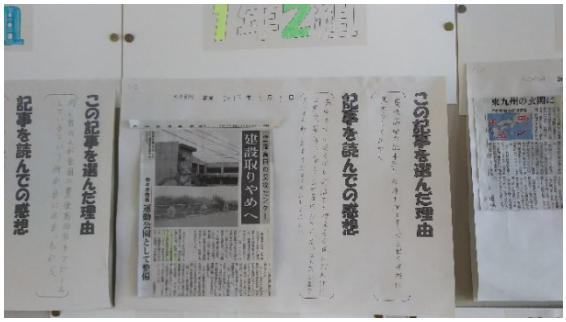
①教室の新聞取り替え

各学級に３～５人いる広報部員が、毎朝職員室に新聞を取りに来て、自分たちの教室に運び、教室で自由に新聞を読むことができる環境づくりをしている。各新聞社からＮＩＥ用に届けられている新聞で、大分合同新聞、読売新聞、朝日新聞、西日本新聞、日本経済新聞、毎日新聞の中から１部選ぶ。

②今月の気になる記事コーナー

広報部が毎月１回の専門部活動の時間に１カ月分の新聞の中から気になる記事を選び、全校生徒に知らせる活動をしている。各クラスの広報部員が新聞を見ながら気になる記事を話し合い、選んだ理由と記事の感想をまとめ、昇降口前の廊下に掲示する。記事を選ぶテーマは、学年ごとに「スポーツ」「政治・経済」「地域（豊後高田市・大分県）」を月交代で担当している。

記事を選ぶ中でそれぞれの気になる記事を話し合い、互いの興味関心の違いや同じ記事に対する感じ方の違いなどへの気付きがある。



③「学級ミニ新聞」作り

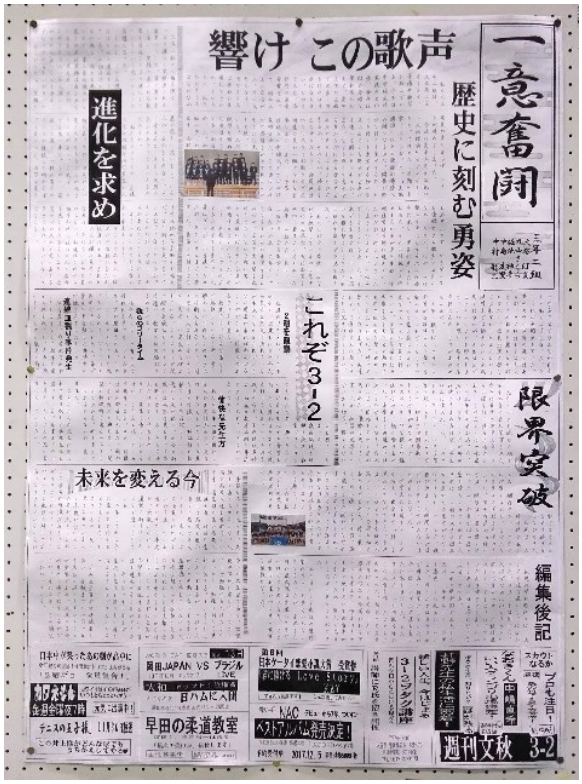
１学期には「学級ミニ新聞」として広報部員が自分のクラスを紹介する新聞作りを行った。クラス目標の紹介やクラスの状況についてのアンケート、大縄大会の取り組みについてなど、どんなことを記事にするかの工夫がそれぞれに見られていた。この活動は２学期に行われる文化祭での学級新聞コンクールに向けての練習を兼ねて行っている。

（４）行事での取り組み

文化祭の取り組みの一つとして、「学級壁新聞コンクール」を行った。本校の文化祭で長年取り組まれている伝統の一つになっている。「これまでの学級の歩みや軌跡を振り返り、壁新聞に

まとめ、披露することで学級の団結を図る」という狙いで、学級ごとに壁新聞を制作した。作成までに広報部が新聞の作り方を学んだり、真っ白な紙に罫線を引いたりして準備を行ったが、その後の記事集めや構成、記事作りなどの新聞制作は学級全体で行っている。制作を通して、これまでのＮＩＥで学んだ構成の仕方や記事の書き方などを思い出しながら生徒同士で工夫する姿が見られていた。

文化祭当日は、ステージで各学級が新聞名の理由や特に読んでもらいたい記事、作成する時に苦労したことや工夫したことなどの新聞紹介をした。その後、掲示されたそれぞれの新聞を見合いながら、見出しやレイアウトの工夫などにも目を向けることができた。



３年生の学級新聞。広告欄まで細かく書かれている。

ステージで新聞の見どころを紹介します

全クラス分を掲示し、全校生徒や来校者に見てもらいます

（５）コンクールへの取り組み

①「いっしょに読もう！新聞コンクール」

友達と一緒に新聞を読むことで、お互いの興味関心を知り合うこと、同じ記事に対するそれぞれの考え方の違いに気付くこと、人と新聞を読むことの楽しさに気付くことを狙いとして、「いっしょに読もう！新聞コンクール」に２年生が取り組んだ。

記事選びでは所属している部活のスポーツに関するものが多かったが、その他にも時事問題、政治に関するもの、食に関するものなどが選ばれていて、生徒の関心の幅広さを知ることができた。友達との意見の交流では、自分と同じ考えを持つ友達とうれしそうに話をする姿や、仲の良い友達との感じ方の違いから自分の考えをより深めようとする姿などが見られていた。

②「おおいた切り抜き新聞グランプリ」

いろいろな視点で新聞を読み、情報を再編集する活動を通して、生徒の興味関心を広げ新聞に親しみを持つことを狙いに１年生が「おおいた切り抜き新聞グランプリ」に取り組んだ。

最初にいろいろな新聞から「笑顔」「食べ物」「平和・環境」「スポーツ」「地域のニュース」

「カラフル」の６つのテーマで気になる新聞を切り抜いた。その後、まとめ方を考えながら自分らしい新聞を作り上げていった。記事の内容を読み、自分なりの考えをまとめたものや、写真の色そのものをコラージュして色鮮やかな新聞を作ったものなどさまざまな形の新聞が出来上がった。記事選びから新聞作りを通して、生徒同士が情報を共有し合ったり、アドバイスをし合ったりすることができ、楽しく新聞と触れ合うことができた。

選んだ記事をていねいに切り取ります

友達と情報交換しながら選んでいきます

３．成果と課題

〈成果〉

・1 年間、ワークシートと新聞コラムの視写にＮＩＥタイムで取り組むことで、新聞記事を読むことへの抵抗が少なくなった生徒が多い。視写も回を重ねるごとに、感想の深まりが見られている。

・専門部の活動では数人で１カ月分の新聞に目を通し、気になる記事を切り抜く活動を行うことで友達と意見の交流をしながら新聞を読む楽しさを感じている生徒が増えている。

・図書館司書と連携することで、新聞作りの方法の資料集めや新聞作りのための情報収集などをスムーズに行うことができた。

〈課題〉

・各学年の担当や各教科担当との綿密な連携が必要である。一つの新聞記事から教科を超えた学習の深まりを狙えるのではないか。

・教職員間の情報の共有ができる体制が整えられるとよい。

・年間を通しての取り組みが教職員にも生徒にも見える形にしておくと、気になる記事のストックをしておける。

主体的・対話的で深い学びに向かう力の育成

～ＮＩＥの実践から～

杵築市立山香中学校　教諭　釘宮　里枝

１．はじめに

本校では、本年度「主体的・対話的で深い学びに向かう力の育成」を重点目標の一つとして掲げ､「生徒自らが問題解決をするための力を育成する授業」、「考える視点や方法、調べ方などについて情報を明確に与える授業」に取り組んでいる。そのために、校内研修において図書館やＩＣＴの活用を行った授業を実施している。

昨年度まで国語科を中心に取り組んできたＮＩＥの実践も、この目標を達成する一つの手立てとなると考え、積極的に取り入れていきたいと考えた。しかし、まだまだＮＩＥが広がってはいない本校では、まず、ＮＩＥの土台づくりが必要であると考え、次の三つの目標を設定した。

○新聞に興味を持つ環境の整備
○今までの実践の深化
○他教科への広がり

本校にとっては、ＮＩＥを全校へ、他教科へと広げる挑戦となる１年間である。この三つの目標を達成し、ＮＩＥが根づくよう、試行錯誤しながら取り組んだ。

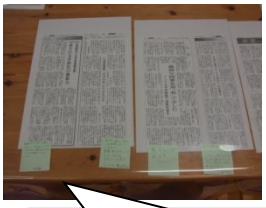
２．実践の内容

（１）環境整備

①新聞に興味を持つ図書館へ

本日の気になる記事

スクラップ



本日のコラム・社説をテーブルに

過去の新聞

②新聞に興味を持つ校舎へ

各新聞の１面を掲示

コラム・社説を掲示

毎日、司書がその日の新聞を掲示する。

（２）日常的な取り組み

①「Ｔｈｉｎｋ　ＮＯＴＥ」〈２．３年生〉

今年度の週末課題について

「Ｍｙ　新聞スクラップ」

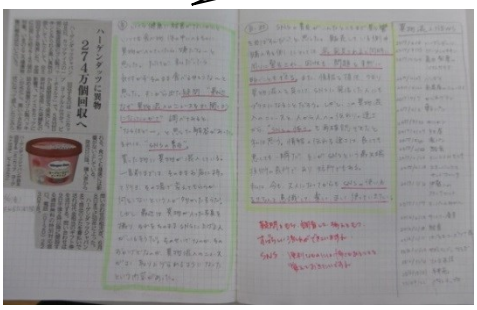
方法　①金～木の新聞で気になる記事を１つ選ぶ。
②ふせんにクラス・番号・名前を書いて、その記事の上に貼る。
③金曜日に、その記事を図書館でもらう。
④週末で、その記事について、ノートに書く。
⑤月曜日の朝提出。

Ｔｈｉｎｋ　ＮＯＴＥの使い方

記事を貼る。	選んだ記事について、考えたこと。または、調べたみたこと。	自分は、社会は、どうしたらいいか。

下の部分には、わからなかった言葉の意味調べなどで活用しましょう。

生徒が書いたノート



興味深い気づきや考えの広がり、深まりがあるものを選び、掲示する。

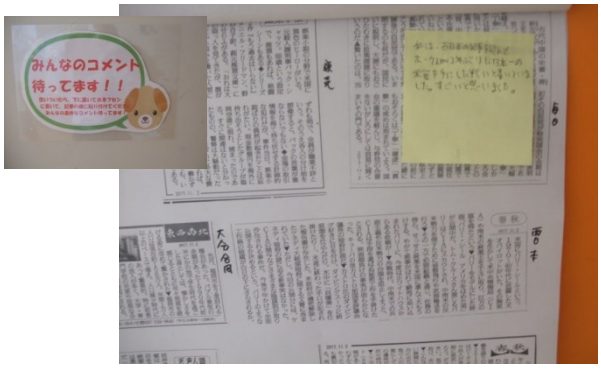
この活動を３年生は本年度の４月から現在まで、２年生は２月から行っている。

「Ｔｈｉｎｋ　ＮＯＴＥ」の活動を通して、生徒からは次のような感想が出てきた。

「Ｔｈｉｎｋ　ＮＯＴＥ」は受験対策や国語について深めるためのものだと思っていました。だけど、すごく身近で、なのに、普段考えることのない、大切なことを、この記事からたくさん学び、考えました。振り返ってみると、前のページの記事からもたくさん学んでいました。

②コラムへの感想〈２年生〉

廊下に掲示されているコラムに感想を書いた付箋を貼る。



この付箋は、次の日、図書館に配置しているコラムに移動させている。

（３）授業での取り組み

〈１年生〉

①「テーマに合わせた記事を集め、切り抜き新聞『私の１面』を作ろう」（国語：切り抜き新聞グランプリ）

１次：大分合同新聞社から講師を迎え、班で切り抜き新聞を作成する。

２次：「私の１面」のテーマを決め、テーマに合わせた記事を選び、切り抜き新聞を作成する。

②「食品の今を知ろう」（家庭科）

食品について扱っている記事を見つけ、その記事についての感想を発表する。

〈２年生〉

①「記事に対して自分の意見を持とう。相手の意見を聞こう」

（国語：私の新聞コンテスト）

・使用した記事

夏休み短縮について

・展開

１．記事について自分の考えを持つ。

２．お家の人や友だちの考えを聞く。

３．自分の考えを深める。

自分と違う考えを持っていることにあらためて気付いた生徒もおり、多様な考えに触れる機会になった。

②「現在の職業は将来どのように変化していくだろうーＡＩ化の視点からー」

（国語・社会・総合）

・使用した記事

ＡＩに関する記事

・展開

１次：職業について調べる。

２次：ＡＩについて調べる。

３次：将来、ＡＩが職業に与える影響を考える。

４次：１年生に調べたことを伝える。

職業という進路学習、ＡＩ化で起きている社会の変化を知る、そして、１年生に伝えるために話すという教科横断的な学習として単元を設定した。また、この時期の「Ｔｈｉｎｋ　ＮＯＴＥ」では、ＡＩについての記事を見つけ、考えを書いている。

〈３年生〉

①「新聞（メディア）とどう向き合っていくか？」（国語）

・使用した記事

消費増税再延期についての社説

（毎日新聞・産経新聞・大分合同新聞）

・展開（ジグソー法）

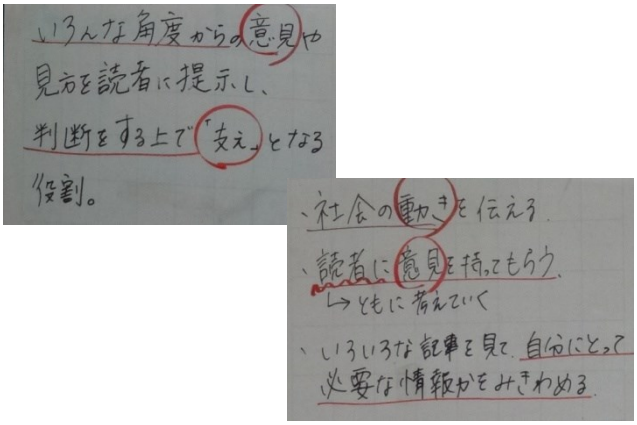
１.本時のめあて[新聞とどう向き合っていくかを考えよう]を知る。

２．社説を読み、主張を捉える。

３．エキスパート班で読み取ったことをジグソー班で交流し、課題[新聞の役割は何か]に迫る。

４．クロストーク活動として、ジグソー班での考えを発表し合う。

５．新聞の役割を踏まえて、今後の新聞との向き合い方を考える。



[新聞の役割は何か]についての考え

考えた新聞の役割を踏まえ、今後の新聞との向き合い方を考えた。情報へのリテラシーを意識した生徒も多くいた。

②「模擬投票をしよう」（社会）

・使用した記事

選挙争点、世論調査について

大分３区の候補者について

（マニフェスト、主張、所属政党など）

各政党の選挙公約、政策の一覧

・展開

１．選挙について知る。

２．小選挙区の候補者の主張について知る。

３．比例代表の投票のために、各政党の選挙公約、政策について知る。

４．模擬選挙を行う。

社会の動きに興味を持つ生徒は増えた。「Ｔｈｉｎｋ　ＮＯＴＥ」で選ぶ記事に、選挙や政治のものも増えてきた。３年後には有権者となる意識を持つことができた。

③「株主になってみよう」（社会）

・使用した記事

株価の一覧（１カ月前のものと現在）

・展開

１．株について理解する。

２．１カ月前の株価を見て、株を選ぶ。

３．現在の株価を見て、どのように変化したかを知る。

４．活動について振り返る。

実際の株価の変動を知ったことで、より理解が深まるとともに、新聞にはさまざまな情報が載っていることを実感し、この活動後も株価をチェックしている生徒がいる。

④「15 年の歳月を比較しよう」（国語）

・使用した記事

自分の誕生日の記事

比較できる今年の記事

・展開

1．自分の誕生日で気になる記事を探す。（県立図書館）

2．15 年前の記事から、現在ではどのように変化しているか予想する。

3．今年の新聞から変化の分かる新聞記事を探す。

4．15 年前と現在を比較し、今後の変化を予想する。

5．発表し、交流する。

お金の変化（紙幣→仮想通貨）

医療の変化（ＡＩへ）

15 年の変化に驚いていた。１年間、新聞を扱ったことで、どのような記事がありそうか、また、どのような見出しがありそうかという予想ができた。今後の展望についても、15 年の歳月の変化を根拠に考えることができていた。

３．成果と課題

「主体的・対話的で深い学びに向かう力の育成」を実現する手立ての一つとして、ＮＩＥを広げようと取り組んできた。１年が経過し、当初掲げた三つの目標は達成できていると考えている。

環境整備については、司書が中心となり、常に新聞が身近にある環境をつくることができた。そのような環境から、立ち止まって新聞の記事を読む生徒の姿も見られるようになった。新聞への興味の喚起につながったのだと思う。

また、今までの実践については、ＮＩＥの単元が３年間の中にしっかりと位置付いたこと、３年生が行った取り組みを２年生へとつなげられたことが一番の成果である。また、１年生から行ってきたことで新聞への抵抗感が薄れ、情報の収集や処理の速度も上がったように感じている。今後も継続することで、より良い実践へと深化していくことも期待される。

そして、他教科への広がりでは、社会科へと広げることができ、そのほかの教科でも導入で新聞に触れるなど、日々の授業の中で、生徒が新聞を目にする機会が増えている。

このような目標の達成は、少なからず、主体的・対話的で深い学びに向かう力の育成につながっていると考えている。新聞を自ら開き、情報を収集しようとする姿、新聞の１面から疑問を持ち、調べようとする姿は、ＮＩＥによってもたらされた主体的な学びに向かう力である。また、自分が気付いたこと、考えたことを相手に伝え、そして、伝え合ったことで新たな気付きや深まりがある姿は対話的な学びに向かう力である。

しかし、課題も残っている。それは、ＮＩＥを本校の教育の中にどう位置付けていくかということである。本年度、本格的にスタートしたＮＩＥの活動を、今後も継続していくことが大切である。そのためには、組織の確立、年間計画の作成に取り組んでいきたい。

人権ニュースペーパーを中心としたＮＩＥの取り組み

大分市立滝尾中学校

１. はじめに

本校は、2014 年度からＮＩＥ実践指定校として、今まで保健体育科が中心となり取り組みを続けてきた。それは、保健体育の学習内容が、例えば『未成年の喫煙は悪い』といったようなすでに分かっていることを学ぶことが多いため、生徒が自分のこととして考えず、興味・関心を引き付けることが難しいという現状があるからである。

新聞記事を教材に取り上げることで生徒にとってテーマが身近な存在になるのではないかというきっかけで取り組みが始まった。

昨年度は、全国大会での公開授業に向けて実践を進めてきた。多くの方々のご指導・ご支援があり、全国大会も無事に終えることができた。授業後の生徒は、自分たちの記事が取り上げられることがうれしいようで自信につながった。

授業では、保健の授業を中心に新聞を資料として活用する実践を行った。生徒にとって、新聞記事は身近で、最新のデータであるので興味・関心を高めるために非常に効果的であった。課題としては、教師が授業に適切な記事を探すのに時間がかかることが挙げられた。使用した新聞教材などを共有し、保健体育科で継続して実践できるようにする必要を感じた。

また、この保健体育科の取り組みから、新聞の活用によって、生徒が意欲的に活動し、思考力、判断力、表現力の高まりが期待できることが分かったので、さらに、他教科へ広げての実践が今後の課題となる。

そこで本年度は次のような計画で実践を進めることにした。

① 新聞記事を活用した授業やレポート課題に取り組む。（保健体育科＋他教科）
② 時事的・社会的な情報が書かれた新聞記事を「人権ニュースペーパー」として教室や廊下の生徒の目に触れやすい場所に掲示する。
③ 司書教諭および図書館支援員と連携し、図書館のＮＩＥコーナーを充実させる。

２. 本年度の実践

① 保健体育科の取り組み

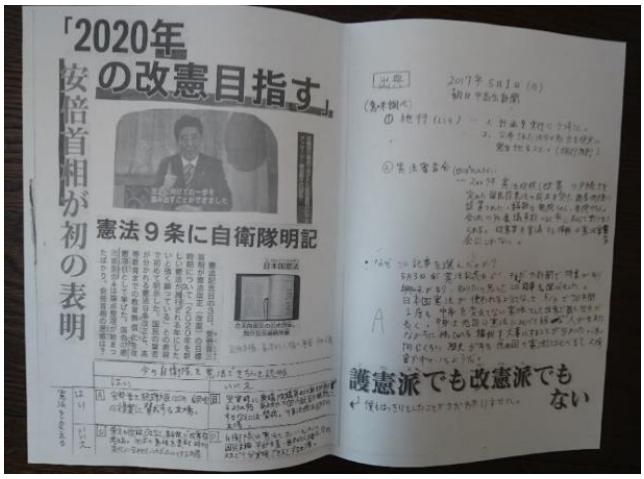
授業では、バレーボールの攻撃の移り変わりについて、新聞記事を用いて学習した。このことで、より深く戦術の変化について学ぶことができた。また、本年度も運動やスポーツへの興味・関心を高めることを狙いとして、２年生の長期休業中の課題として、新聞記事を読んで自分の意見をまとめるレポート課題に取り組ませた。

「新聞記事を使った保健の学習プリント」

② 社会科の取り組み

社会科では、思考力、判断力、表現力を高めるために、公民分野などで学習したことに関連する新聞記事を生徒自身が選び、そのことに関して自分でまとめ、意見を書くニュースレポートに取り組んだ。

生徒は自分の意見をまとめるために、新聞記事を何回も読み返し、レポートの作成に取り組んだ。



「社会科ニュースレポート」

③ 人権ニュースペーパーの取り組み

本校は2016年度から「大分市人権・同和教育推進モデル校」の指定校として、「人権･同和教育の視点に立ち、学校生活のすべての場において、一人一人の子どもに応じた支援を行うことを中心とする研究を進めてきた。

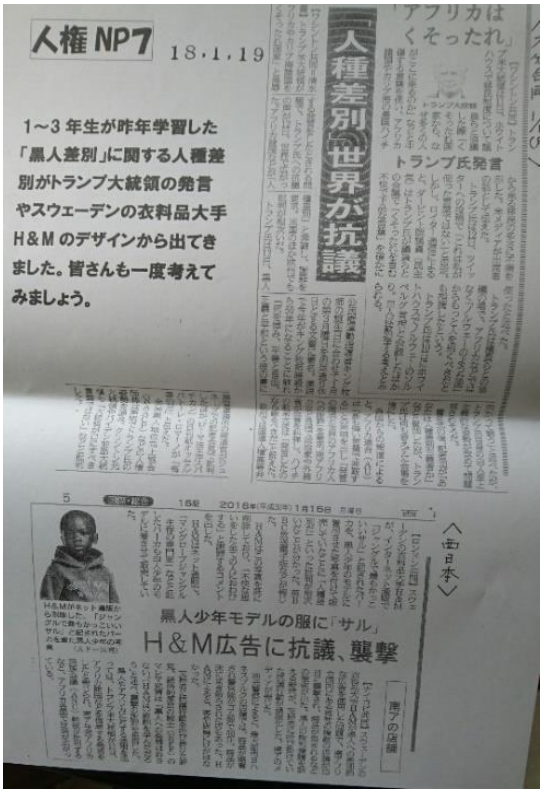
人権・同和教育の視点に立った教育活動を推進するためには、生徒、指導者ともに人権尊重への意識を高めていく必要がある。

そこで、人権に対する課題意識を高める取り組みとして、時事的・社会的な情報が書かれた新聞記事を「人権ニュースペーパー」として教室や廊下の生徒の目に触れやすい場所に掲示した。これを学活や帰りの会の時間に扱うことで、話題や問題意識を喚起した。

「廊下に掲示した人権ニュースペーパー」

障がい者の問題や人種差別など、さまざまな問題を取り上げてその都度、生徒たちに提起をしていった。新聞記事を使ったことにより、生徒にとっては身近な情報源として有効なものになった。例えば、障がい者スポーツについての記事では、自分たちは当たり前のように部活などで、スポーツに取り組んでいるが、支援学校の友だちは卒業後のスポーツの受け皿が不足していることについて考えさせ、問題意識を持たせることができた。

「障がい者スポーツについて扱った
人権ニュースペーパー」



「人権差別についての人権ニュースペーパー」

また、１回の掲示で二つの新聞記事を取り上げ、それぞれの記事から考えさせることで、人種差別の問題について考えるきっかけをつくることもできた。

④ 人権学習での取り組み

本校では、月１回程度の人権ニュースペーパーの取り組みを下地に、学期に１回の特設の人権学習を行っている。１年生では、北朝鮮による横田めぐみさんの拉致事件を扱った。アニメビデオ「めぐみ」の視聴から中身に迫り、これに加えて、なかなか解決に向かわないという現状を記した新聞記事を取り上げ、その上でめぐみさんに対する手紙形式の感想を書くという形をとった。

新聞記事を扱うことによって、現在の北朝鮮情勢や、家族が高齢化している問題について生徒たちがよりリアルに感じ、深く考えることができた。

「拉致問題に関する新聞記事」

⑤ 職場体験・修学旅行・高校調べなどの新聞作成

２年生は、職場体験・修学旅行などの行事に関する内容を新聞形式でまとめた。また進路学習の中で高校調べも行った。各班で高校について調べ、「高校新聞」を作成した。生徒は、行事の振り返りや自己の進路を考えるいい機会となった。

「廊下に掲示した修学旅行新聞」

３. 環境整備

図書館のＮＩＥコーナーの充実

本校では、生徒に広く新聞に興味を持ってもらうために校内の図書館に「ＮＩＥコーナー」を設け、自由に新聞が読めるようにしているが、今年度は生徒が興味・関心を引く記事を掲示して生徒が新聞に触れる環境をさらに整えるようにした。生徒たちは新聞記事をきっかけにそれに関する本を読むようになり、読書指導としても効果的であった。

「図書館のＮＩＥコーナー」

４. 実践の感想と今後の課題

ＮＩＥ実践指定校となってから、本校では保健体育科が中心となって取り組みを続けてきた。

昨年度の全国大会での公開授業という一つの節目が終わり、本年度の目標はこの保健体育科が築き上げた実践をいかに他教科に広げていくかということであった。

私たちが特に共通理解を図ったのは、一人一人の子どもたちを輝かせるために、滝尾中教職員の生徒に対する指導・支援のベクトルを合わせて指導の統一性・一貫性を図るということであった。

今まで、授業に適切な記事を探すことなどを保健体育科が中心となって行っていた。これを同じように各教科がバラバラに実践していては学校の研究として深まらない。

今年度の人権ニュースペーパーに使う新聞記事は人権・同和教育主任が厳選して全校に配布し、職員の人権意識、ＮＩＥに対する意識を変えることになった。このことがそれぞれの教科において、授業で、新聞を資料として活用することへつながった。社会科のニュースレポートなどでは、新聞記事は身近で、最新のデータであるので興味・関心を高めることに非常に効果的であるとあらためて感じた。

保健体育科を中心とした取り組みは、少しずつ他教科にも広がりをみせている。この研究で得たものを、生徒たちの変容に結び付けられるよう、引き続き実践を重ねていきたい。

「磨き合う力」の育成

～生徒の主体的・対話的で深い学びの探究～

大分市立判田中学校　教諭　髙山　利恵

１．はじめに

本校は2014年度からＮＩＥの実践指定のもと、「磨き合う力の育成」を研究主題とし、サブテーマを１年目は「思いや考えを意欲的に述べ、聴く、学級活動の指導を通して」、２年目は「思いや考えを意欲的に述べ合う新聞活用」、３年目は「思いや考えを深め合う新聞活用を通して」とする中、ＮＩＥ全国大会公開授業や全職員による校内研究の深化に向けて取り組んできた。研究内容の重点として、①目指す授業づくりについての共通理解と実践②学年研・個人研による授業づくりの二つを掲げ、具体的な取り組みとして、ＮＩＥ教室などの新聞が身近にある学習環境整備、新聞を活用した授業実践例紹介や共通理解、各教科等で新聞を活用できる年間計画の作成、各教科・道徳の時間・特別活動・短学活における積極的な新聞の活用などに努めた。

結果として、生徒の文章構成力や社会の出来事に対する興味関心の向上、新聞記事の精選による生徒の意欲的な学習活動への取り組み、振り返り活動の充実による主体的な学びの実現、話し合い活動の充実による生徒の視野の広がりなど多くの成果が見られた。課題としては、「授業の質的向上」、「新聞ありきではなく、授業のねらいを達成することを目指した資料などの吟味や活用」、「今後も自ら考え、意見を述べ合うことができる生徒をどう育てていくか」、「思いを伝え合う力をさらに高めるための工夫」などが指摘され、これまでの３カ年の研究を、さらに継続し、改善する必要性が明らかになった。

また、「特別の教科道徳」の中学校全面実施が約１年後に迫っていること、昨年３月に告示された次期学習指導要領において重視されたものの一つが「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」であることを踏まえ、本年度は研究主題を継続して「磨き合う力の育成」とし、サブテーマを「生徒の主体的・対話的で深い学びの探究」とした。生徒が課題や発問などを興味や関心、問題意識、必然性を持って追求し、自分の考えを基に伝え合うことで自分の考えを広げたり深めたりし、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることにつながると考える。そのためにも、道徳及び各教科・領域で生徒が主体的に自分の思いや考えを基に伝え合う活動を取り入れた提案授業を年３回以上実施し、生徒の「磨き合う力」を育成する。また、「生徒の主体的・対話的で深い学びの探究」に向け、提案授業だけではなく、日常的に教員が教えることにしっかりと関わり、生徒に求められる資質・能力等を育むために必要な学びのあり方を考え、授業の工夫・改善を重ねていく。

これまでの研究成果を生かす取り組みの一つとして、生徒がこれからの変化の激しい社会を生き抜くよう、主体的に社会と関わる力を育成するために、ＮＩＥの日常的実践を継続していく。これまで通り、ＮＩＥ室に３年生の体験入学新聞、２年生の職場体験新聞や修学旅行新聞、全クラスの１分間スピーチファイルを置き、各学年のフロアに新聞を設置するなど、身近に新聞がある環境づくりを継続する。朝自習ではコラムの視写（１・２年生）を行い、分からない言葉について自分で調べ、内容を的確に読み取る力を育てる。帰りの会では１分間スピーチ(全

学年）を行い、自分で選んだ新聞記事をもとに思いや考えを伝え合い、ものの見方や考え方を広げさせ、相互理解を図る。また、年間指導計画を参考にし、授業のねらいを踏まえた新聞活用の１人１実践に取り組む。

２．　学期ごとの１人１実践における成果と課題

（１）　１学期の各教科（領域）の実践

（〇は成果、△は課題）

①国語「情報の集め方を知ろう」

単元のねらい：情報の集め方を知り、目的に応じた方法を考えることができるようにする。

本時のねらい：新聞の特徴を理解し、気に入った記事を選ぶことができるようにする。

〇実際の新聞を扱うことで、多くの記事を見ることができた。楽しく記事を選ぶことができた。

△文章よりも、写真で気に入った記事を選ぶ生徒が多かった。複数の新聞社のものを準備したが、同じ内容でも記事の内容が違うというところまで気付かせることは難しいと感じた。

②社会「少子高齢化」

単元のねらい：現代社会に関心を持たせ、持続可能な社会を形成するためにどうすればよいかを考えることができるようにする。

本時のねらい：統計資料を基に少子高齢化の進行とその原因について理解させる。

〇新聞記事を活用することで公民学習に深まりがある。ipad で新聞記事を取り込み、プロジェクターで拡大することで生徒の視覚に訴えることができる。時事問題を扱うのに新聞記事はとても有効である。

△授業展開で効果的な新聞記事を見つけること。

③数学「連立方程式の利用」

単元のねらい：連立方程式を利用して、身近な問題を解くことができるようにする。

本時のねらい：連立方程式を使って、問題を解く手順を理解し、その問題が解けるようにする。

〇生徒にとって身近なラクテンチに関する記事を活用した授業だったため、関心を持って取り組むことができた。記事の内容を比較しながら、問題を解くことができた。

④英語「My School」

単元のねらい：自分以外の人や物について紹介したり、尋ねたり、答えたりすることができるようにする。

本時のねらい：He, She を使って、身近なスポーツ選手を英語で紹介することができるようにする。

〇どのスポーツ選手を紹介するか、どの生徒も真剣に新聞記事を読んでいた。実際の新聞記事を活用することにより、興味・関心が高まった。

⑤保体「傷害の防止（応急手当の意義と基本）」

単元のねらい：応急手当とその意義について理解させる。

本時のねらい：心肺蘇生法の手順と方法を理解させる。

〇水難救助（心肺蘇生）が身近であることが分かった。川などがとても危険だということが理解できた。夏休み前に水の事故についての良い学習ができた。

△誰にでも救助できると勘違いさせる記事ではなかったか。人命救助が怖いものと感じさせていないか。

⑥家庭「幼児の遊びと発達」

単元のねらい：自分の乳幼児期を振り返らせ、乳幼児の発達について理解させる。またその成長が家族や地域・行政に支えられていることに気付かせる。

本時のねらい：乳幼児の発達の特徴と遊びの意義について理解させる。

〇松谷みよ子が乳児向けの絵本を作成した経緯を知ることによって、絵本が高く評価されている理由は、赤ちゃんの発達の特徴に留意したものであると気付かせることができた。作者自身のインタビューに答える優しい口調に触れるこ

とによって、生徒に優しい気持ちを抱かせることができ、赤ちゃんとの触れ合い体験学習につなげることができた。

⑦道徳「生命の尊重」

本時のねらい：生命の尊さについて、班やクラスでの意見交流で多面的・多角的に思考させることによって、自他の生命を尊重する道徳的態度を育てる。

〇新聞記事を活用することによって、自分の問題として深く考えさせることができた。

△新聞は最後よりも最初に提示すると良かった。

⑧学活「先輩の進路と進路選択の条件」

本時のねらい:先輩の進路を知ることによって、進路選択にはどういう条件が必要なのかを理解させ、自分の進路計画を進める心構えを育てる。

〇新聞を活用することで、生徒自身が気付いていないことにも気付かせることができた。

△より内容に即した記事を見つければ良かった。

⑨総合的な学習「職場体験学習」

単元のねらい：働くことの喜びや苦労、厳しさを体感し、働くことの意義や価値を学ばせる。

本時のねらい：グループで作成した新聞を基に発表し合うことを通して、職業や働くことについての理解を深める。

〇班ごとに伝わりやすい新聞作成をすることができた。また、新聞を基に発表することで伝えたい事が明確になり、学習したことに対する理解が深められた。興味を持って仲間の発表を聞くことができた。

（２）２学期の各教科（領域）の実践

（〇は成果、△は課題）

①国語「新聞を読み比べてみよう」

単元のねらい：新聞を読み比べることで情報を伝える側の意図や活用方法について考えさせる。

本時のねらい：４社の１面の相違点に気付くことでメディアの特徴や活用について自分なりの考えを持たせる。

〇今回は新聞４紙を比較するということで、「知識構成型ジグソー法」という２段階で話し合い活動を組む協調学習を用いたが、短時間で必要な情報を読み取ることができた。「熊本地震」という災害を扱った記事なので、相違点を見付けることが難しかった。しかし、学習者は共通点からも災害時における新聞というメディアの役割に触れた感想が書けていた。１年生から取り組んできた新聞を扱った１分間スピーチやホワイトボードを使った班学習などの取り組みによって、必要な情報を読み取る力や課題を追求する力が付いてきたと考える。

②数学「試合数を考える」

単元のねらい：いろいろな競技における対戦から試合数に着目し、総試合数を求めさせる。

本時のねらい：リーグ方式とトーナメント方式で試合の総数を求めることができるようにする。

〇生徒の部活の試合もトーナメント方式やリーグ方式で行われることから、興味を持つことができた。

△規則正しさを見つけるために、表や樹形図などを利用していく途中の考え方が大切なのに、結果だけを書いて満足している生徒が多かった。「１００チームの時は？」を出題して考え方が大切であることを導いた。

③英語　Lesson 4 Enjoy Sushi

単元のねらい：日本の文化に関する文章を読んで、理解できることができるようにする。

本時のねらい：本文を参考にしながら、相手意識を持って、ふるさと大分に関する文章を英語で書くことができるようにする。

〇記事やかるたを参考にしたり、班で相談して書いたりすることにより、大分について理解を深めることができた。相手意識や目的意識を持たせることにより、意欲的に英作文に取り組むことができた。

④音楽　滝廉太郎「荒城の月」

単元のねらい:「荒城の月」の作曲者である滝廉

太郎に関心を持ち、曲の良さを味わわせる。
本時のねらい：滝廉太郎の生涯や代表曲について学習し、作曲者に興味を持たせる。
〇ほとんどの生徒が滝廉太郎という名前を知っているが、大分県にゆかりのある作曲家であることなどについて記事を使って再確認させることができた。

⑤保健体育「生活習慣病」とその予防

単元のねらい：生活習慣病を理解させる。
本時のねらい：生活習慣病の予防のために、自分の生活を振り返らせる。
〇グループでの発表で、いろいろな対処の仕方を知ることができた。
△身内に生活習慣病で亡くなった人がいるかもしれない。配慮が必要である。

⑥技術「私たちの生活とエネルギー変換」

単元のねらい:自然界のエネルギー資源を知り、それを利用する仕組みを理解させる。
本時のねらい：エネルギー資源の有効利用について考えることができるようにする。
〇再生可能エネルギーの利用で大分県は自給率が30%を超え、都道府県別でトップを維持し太陽光発電や地熱発電では国内最大の九州電力八丁原発電所(九重町)があることを知ることや、再生可能なエネルギーを利用するためには地域での人々の生活も考えて開発していく必要があることについて考えることができた。

⑦家庭「家族・家庭と子どもの成長」

単元のねらい：幼児の発達を知り、周囲に支えられていることに気付かせる。
本時のねらい：幼児を取り巻く実態を知り、実際に触れ合う体験の大切さに気付かせる。
〇新聞記事を活用することにより、乳幼児を取り巻く現況に驚き、次時の触れ合い体験の意義が理解できたと思う。思春期の生徒に自身の家族環境について触れることは難しく、深い学びを展開しづらい単元である。しかし新聞を活用することによって、児童虐待を社会問題として教材提供し、共通のテーマとして設定したことにより、主体的・対話的で深い学び合いの学習ができたと考える。

⑧道徳「よりよい学校生活、集団社会の充実」

本時のねらい：伝統文化について、班やクラスの意見交流で多面的・多角的に思考させることによって、伝統文化を大切にしようとする気持ちを持たせる。
〇映像資料に加えて３種類の新聞記事を活用することによって、深い学びにつなげることができた。

⑨総合的な学習（特別支援学級）「買い物計画」

単元のねらい：修学旅行の買い物計画を立てさせる。
本時のねらい：自主研修（京都）での買い物計画を立てさせる。
〇タイムリーな京都展の広告を活用することができた。カラー写真や金額が載っているので、お土産を具体的にイメージすることができた。

３．　総括

前年度までのＮＩＥ全国大会大分大会を見据えた３年間の取り組みにより、新聞の日常的な活用が生徒・教員におおむね身についている。そして本年度は「新聞活用ありき」ではなく、「授業のねらいを達成すること」を目指した新聞活用を多くの教科（領域）で行うことができた。また提案（互見）授業の実施や実践交流などを通して、さまざまな活用の仕方があることや効果的な活用の仕方などについて教科の枠を超えて、理解を深めることができた。「情報を精査して考えを形成すること」は、新学習指導要領でも深い学びの一つとして求められるものである。情報を得るための非常に有効なツールとしての新聞活用は本校の生徒および教員に一つの文化として根付いている。今後も授業のねらいに沿った新聞活用等を行うなど、授業改善を図る中、生徒たちにこれからの社会を生き抜く資質や能力を育成するため、主体的・対話的で深い学びの実現を目指していきたい。

継続的な新聞活用による確かな学力の定着

～「ＤＯ緑（どりょく）タイム」を核にして～

竹田市立緑ヶ丘中学校　教諭　佐藤　美登里

１．はじめに

３年前、本校に赴任した時のこと。全校生徒数は50人程度で穏やかな環境の中、生徒は素直で、生活態度に大きな課題はないけれど、読解力が非常に弱いので、毎日10分間のドリルタイムを国語科で、ということになった。15年前から朝自習やドリルタイムで、新聞記事を活用したワークシートを毎日自作している私にはむしろありがたいことと思えた。しかも、その効果は日を追って明らかになった。テストでの無回答率が大幅に減少したこと、記述問題にも向かう姿勢が育まれたことで各種テストの結果が点数としても大いに伸びたこと、そして何より、集中力も向上したこと、生徒自身が成長を自覚できることなど、多くの成果が得られたのである。

日常的な授業の工夫改善の上で、全校で取り組むこの活動を３年前「ＤＯ緑（努力）タイム」と命名した。学校名の一文字であり、スクールカラーでもある「緑」と「努力」を重ねたものである。行事や定期テストなどの特別な日は除いて毎日、実施している。具体的な指導やワークシートの作成は国語科が担っている。一昨年度からは、生徒の書き込んだワークシートのコメントも各学年部の職員が手分けして行っている。チーム力に深謝しつつ継続している。

そんな折、ＮＩＥの実践指定校となって複数紙の提供を頂けることになり、「ＤＯ緑タイム」を核として、さまざまな活用により、確かな学力の定着につながる継続的な実践をする機会を得ることができた。

２．実践の内容

（１）毎日10分間の「ＤＯ緑タイム」

①ねらい

新聞のコラムを中心とした短く秀逸な文章に慣れ親しませることによって、読解力や論理的思考力、表現力をつけさせる。

②取り組みの実際

- 午後１時40分から10分間（昼休みの終わり、５校時の前の時間帯）に設定し、毎日行う。
- 生徒会学習部の活動内容の一つとし、学習部員が昼休みのうちに配布し、回収する。
- ワークシートの引用文は国語科が複数の新聞のコラムの中から選び、手作りする。適宜、コラム以外の新聞記事も利用する。
- １学期、１年生は「東西南北書き写しノート」を使って、ひたすらタイムトライアルをさせ、ゲーム感覚で楽しく取り組ませた。２学期以降は２・３年生と同じワークシートを使った。２学期前半は漢字の読みや辞書を使っての意味調べ、３色ボールペンを使った傍線引き、要約、題名付け、意見文の短作文など、生徒の状況に応じて、ワークシートをアレンジしながら取り組ませた。
- 新聞記事に触れることで視野や知見を広げることができる。特に時事問題への関心も促すことができて、他教科の学習にも生かせた。
- 「ＤＯ緑タイム」の監督とワークシートの点検は学年部所属の全職員で行う。必要に応じて国語科が確認などを行う。

・学年末には、生徒一人一人が自分のファイルからワークシートを全て抜き取り、感想も記した表紙を付けて国語科に預ける。国語科で最終点検した後、職員室前のガラス戸のロッカーに保管する。冊子の厚みで〝見える化〟し、意欲の向上につながり、卒業時には記念の品となる。

③学習効果向上のために

・良いものは国語科の授業の中で取り上げ、生徒の学びの材料とする。
・適宜、「ＤＯ緑ファイル」を廊下に展示し、感想を交流させる。
・文化祭や研究発表会、視察などの折々に、全員の「ＤＯ緑ファイル」を展示する。
・卒業時には、「新入生のための『ＤＯ緑ノススメ』」を写真入りで調え、新入生の意識喚起の一助とする。在校生の楽しみにもなっている。
・毎学期末に生徒アンケートを取り、実践の振り返りをする。それを踏まえて、次の学期の取り組みを全職員で検討する。

≪参考❶1年生の感想より（本文のまま）≫

・だんだん書き写しも速くなっていくのが自分で分かって楽しかったです。もう少し早く書けるようになりたいです。ＤＯ緑タイムで知らない漢字や言葉が出てきて調べて分かると楽しかったです。知らないニュースもたくさんあって、今、どんな事が起こっているのかが分かって勉強になりました。
・初めて「ＤＯ緑タイム」をした時の進み具合と今の進み具合が全く違っていてびっくりしました。毎日頑張ったからこその喜びだと思いました。また、難しい漢字も少しずつ自分の力になっていった気がします。
・私が書き写しをして変わったことは、字を書くのがとても速くなったことです。やるにつれて字もだんだん読みやすくなったし、意味も読みながら分かるようになりました。20 分で書けた時は感動しました。
・最初の倍の速さで書けるようになった。字もある日からぱっと変わっていた。1 日で書き終えることはまだできないが、書く量が増えていくのはうれしい。
・早く書けるようになるにつれて字が汚くなって読めない所も出てきました。字をきれいに書きたいので、書き間違えて消した所を数えてみました。すると、字が汚いほうが多く消していて意外でした。
・シャープペンで書くよりも、鉛筆で書いた方がたくさん書けました。ちょっとびっくりしました。
・この１年で文を書く力もテストの点数も上がりました。世の中のことも知ることができます。この１年間のＤＯ緑タイムの紙は全て私たちの力になっていると思います。

≪参考❷2年生の感想より（本文のまま）≫

・知らない漢字が出ても予想して書くと正解することがとても多くて喜びがとても大きいです。一つ一つの喜びが次への成功につながっていると思うのでこれからも 10 分間、しっかり集中したいです。
・ＤＯ緑タイムも２年目になって、記事の中でも記者さんの伝えたいことがかなり分かるようになってきました。漢字の読みの正解数も去年より多くなりました。私はタイトルをつけるのがまだ苦手です。３年生になったらできるようになりたいです。入試や日常の会話にも生かせるように、これからも頑張りたいです。
・初めの頃は面倒くさいなーと思っていましたが、文章を書く力が日に日に強くなっていくのが感じられました。自分の心に響く文を見つけたり、文章の構成をまねしたりと、いいことがたくさんあるので、これからも楽しんでいきたいです。

（2）「ＤＯ緑タイム」から広がる学習

①国語科

○学期に１度の「プチ学級弁論大会」

各学級で実施する。新聞記事やテレビなどから得た時事問題を自分の体験に重ねて考えたことを意見文として調え、スピーチとして発表し、感想も交流させた。全員が一人一人のコメントを書き、思考を深め、互いを認める好機とした。

○大分合同新聞出前授業

９月に全校生徒を対象に実施。昨年は新聞に関する教科書教材の発展学習として主に知識を得、切り抜きをして新聞に親しむ学習を行った。本年度は、新聞作りの技術も含んだ講習をしていただいた。生徒は楽しみながら学習を深めることができた。

○「売り込め！わが社の新聞！」

12 月に１年生国語科「ポスターセッションをしよう」の発展学習として調えたオリジナルの学習活動を実施した。全国紙４紙とブロック紙、地方紙各１紙の読み比べの後、グループごとに各社のセールスをするという設定で、自社の新聞の良さをひたすらＰＲし、聴衆が１紙だけ購入するとしたらどれにするかを投票させた。各紙のコラムの特徴も考えさせた。日頃の学習の成果を随所に感じた。

○「新聞広告の批評文を書こう」

11 月に３年生国語科「説得力のある文章を書こう　批評文を書く」の発展学習として調えたオリジナル教材。魅力を感じた広告を 1 人が１点選び、共通の観点を立てて分析し、スピーチメモをまとめ、ノー原稿で発表し、感想や意見を交流させた。気付きを基にした思考の広がりや深まりを楽しみつつ、切磋琢磨し合う時間となった。

②総合的な学習の時間

本校は学年ごとに総合的な学習の時間の年間テーマを設けている。それぞれ課題解決型の学習活動を仕組み、調べ学習も大切な要素である。その際、新聞記事を紙媒体の非常に有用なものとして積極的に活用してきた。水俣病に代表されるような環境学習や平和学習の素材としても新聞記事の切り抜きには説得力があり、生徒自身が進んで新聞をめくり、議論する姿も多く見られるようになった。

また、新聞記事を扱う時に国語辞典を自然に手にする生徒が増えた。「ＤＯ緑タイム」で国語辞典を机上に置き、引いた所に付箋を付けることが習慣化していて、付箋で辞書が膨らみを持つ様子も楽しみの一つになっている。

③社会科

時事問題を頻繁に授業で扱ってきた。信憑性の高い情報を得るだけでなく、読み深めることで思考も広げることができる。特に公民ではタイムリーな記事で、生徒の興味や関心を強く引くことができた。「ＤＯ緑タイム」で扱った内容とシンクロすることも多く、多面的に考える材料にもなった。

④学級指導の中で

１年生の帰りの学活で毎日、日直の２人がそれぞれ１分間スピーチをする。折々、「ＤＯ緑タイム」で取り上げられた新聞記事の中に題材を求め、それに対する自分の考えを述べる、という条件付けをしたスピーチをさせた。鋭い意見も出て、互いの良さを見直す機会にもなっている。

⑤ＮＩＥコーナー「今日のＤＯ緑」

その日の「ＤＯ緑タイム」で取り上げる話題に関連した新聞記事を貼ることで、さらに詳しく知り、考えを深められるようにした。特に写真を多く取り上げ、通りすがりにも目を止めるようなものを掲示した。立ち止まって１人で読む生徒もいるし、感じたことをつぶやき合ったり、時には楽しく議論したりする様子も日常的に見られるようになった。

３．環境整備

①「新聞立ち読み場」

地元の方のご厚意により、一昨年から毎日、大分合同新聞を生徒用に１部頂いている。生徒玄関のホールに大きめのテーブルを設置し、いつでも誰でも新聞を読めるスペースを設置している。購読している中学生新聞も常時置いている。

２学期の間、ＮＩＥの実践指定校となったおかげで、６紙が毎日届けられることになり、立ち読みスペースを広げた。生徒はそれぞれ気に入った新聞をめくったり、気になるニュースを各紙で探したりして楽しんでいた。

国語科独自のアンケートによると、本校生徒の家庭での新聞購読率はかなり高いことが分かった。けれど、よく読んでいるのは祖父母であり、親世代はあまり読んでいない様子がうかがわれた。生徒についてはテレビ欄とスポーツ欄以外はあまり読まない傾向が顕著であった。若い世代ほど家で新聞を読まない傾向があるものの、「立ち読み場」を３年間設置して、中学生には仲間と面白がって親しませる場を設けることに効果があることを実感した。

また、生徒が切り取りたい記事があれば、国語科に伝えて持ち帰ることができることにした。多くはないが、申し出は何度もあった。

②「ＮＩＥ掲示板」

○「昨日の新聞☆1 面読み比べ」
　地方紙と全国紙の１面を毎日張り替える。

○「今日の『ＤＯ緑』」
　その日の「ＤＯ緑タイム」で取り上げる話題に関連した新聞記事を貼る。

○「大分合同新聞　高校受験生のページ」
　毎週日曜日掲載分を毎回貼る。

○「先輩からのエール」
　卒業生からの応援メッセージを卒業生の顔写真入りで紹介する。

○「コメント大公開」
　「ＤＯ緑タイム」に取り上げた記事の内容に対して考えたことを大判の付箋紙に書き、全員のものを並べる。

○「特設コーナー」
　大きなニュースや総合的な学習の時間の参考記事などを適宜、紹介する。

○「気になるニュースにひと言」
　生徒会学習部の活動で不定期に実施。取り上げた記事とそれに対する自分の考えを書き、掲示し、意見交流の場とした。

③図書館の新聞コーナー

・中学生新聞をバックナンバーで調え、調べ学習にも活用している。
・新聞関連の図書を計画的に購入し、生徒が使いやすいように配置なども工夫している。

４．成果と課題

・「ＤＯ緑タイム」の価値については全職員が認識し、共同して取り組むことができている。誇れるチームワークに深謝している。
・2 学期末に実施した全校生徒対象のアンケート調査の結果を見ると、読解力の向上については 98.0%、表現力の向上については 88.1%の生徒が肯定的な評価をしている。各種作文コンクールや弁論大会でも入賞者が多数出ている。
・毎週行う生徒集会でのスピーチや文化祭の学年演劇、各種大会での発表などに学びの成果が大いに発揮されていて、生徒が着々と自信をつけていることが分かる。
・本校では３年前からずっと「『ＤＯ緑タイム』の実践」を重点目標達成のための具体的取り組みに位置付けている。確かな学力の定着の面でも成果を出している。来年度も職員や生徒の実態を早めに見極めた上で、この取り組みを核として、より良い方策を考え、実践を進めたい。

新聞を通して社会と向き合い行動できる生徒の育成

～ＮＩＥの取り組みを進め、社会的事象に関心を持たせる～

大分県立別府翔青高等学校　教諭　畑野　新司

１．はじめに

本校は、別府青山、別府羽室台、別府商業の３校が発展的に統合し、2015 年に開校した単位制の学校である。開校時よりＮＩＥ実践指定校を受けるとともに、県からは「学校図書館活性化推進プラン」の研究指定も受けている。

今年度は、学校の教育目標である「積極的に社会に参加する、責任と良識ある市民性の育成」を達成するため、組織的にＮＩＥや学校図書館の活用を図った。具体的には、一つの分掌の中（本年度は、教育企画部の図書館係）に位置付けた。

２．具体的な取り組み

本年度の具体的な取り組みは以下の通りである。

① 朝読書の時間を使ったＮＩＥワークシートによる取り組みを月４回行う。

② 新聞や雑誌などを使い生徒の関心を引き出す工夫を、各単元に１回以上入れる。

③ 朝ＮＩＥの記事や各種講演会に関連した図書を毎回紹介する。

④ 総合的な学習の時間に新聞を活用した取り組みを入れる。

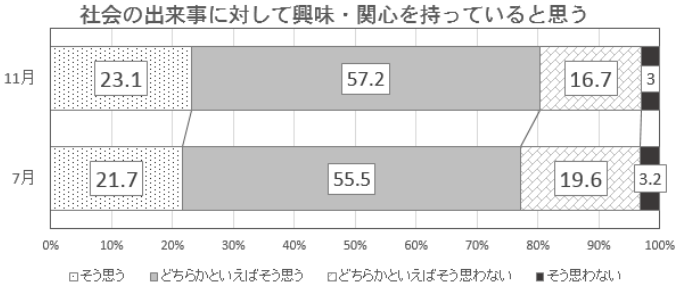
特に、１年次の総合的な学習の時間では図書館にある「切り抜き速報」を活用したスピーチコンテストも実施し、クラスの代表者が学年全員の前で記事を選んだ理由やその記事を読んで感じたことなどを発表した。準備期間も少ない中であったが、それぞれの思いが詰まった発表であった。

また秋には本校で「大分県ＮＩＥセミナー」を開催し、「情報の科学」「現代社会」の２科目で新聞（記事）を活用した公開授業を行った。

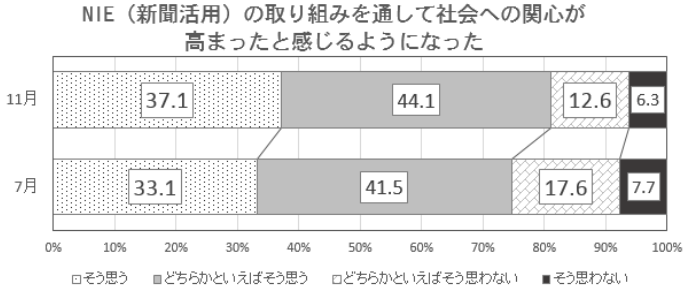
あるクラスでは新聞の１面記事を毎日掲示する担任や、授業の最初に記事の紹介をする授業担当者など学校の教育活動全体でＮＩＥの取り組みが見受けられるようになった。

３．生徒評価より

１学期(7 月)と２学期(11 月)に実施した『学校生活に関するアンケート』の結果は以下の通りであった。



２つのグラフを見て分かるように、微増であるが、学校の取り組みの成果が良い方向に向かっている。１年次の教科「情報」で関連した内容の調査結果も紹介する。



１学期に比べ、授業での新聞記事の扱いも増えたことが生徒への関心増につながったと分析している。特に、ＮＩＥセミナー後ということが大きかった。しかし、自分から新聞を読もうと思わせなければ、一過性のものになってしまうであろう。そのためには、継続した取り組みや、新聞の良さを伝える取り組みがさらに必要である。

４．見えてきた課題

本年度の取り組みから見えた課題は以下の通りである。

① 生徒のＮＩＥコーナー利用が少ない

毎日４社の新聞を学校司書の先生にお願いし、置いてもらっているが、あまり読んでいる姿を見ない。その理由は、新聞というツールが生徒の身近な情報源となっていないからではないか。詳しく調査していないが、家庭で新聞を購読していなければ、もしかすると新聞を情報源とする考えも出てこないのかもしれない。ならば、こちらから新聞を身近に置くという発想もありかもしれない。

→１年次の各クラスに新聞を設置する
（新聞の教材用価格の利用）

② 生徒自身が記事を選ぶ機会がない

朝のＮＩＥの記事は、教員が輪番で行っている。当番になった教員が記事を通して、何かを伝えることはできるが、どうしても偏りが生じる。今年、夏休みの課題として、「いっしょに読もう！新聞コンクール」の取り組みを行った。生徒から提出された記事のバリエーションの多さには驚いた。まだまだ１年生ということもあり、簡単な記事も多かったが、自分で記事を選び、考えることの大切さを感じた。

→朝ＮＩＥの記事選びを生徒（文化委員会やルーム長）にも行わせる

③ 教科と教科を結ぶ活動が少ない

秋に行った「大分県ＮＩＥセミナー」の続きとして、現代社会の定期考査では自分で考えた提案を書く問題の出題があった。また、現代社会では自分の気になった記事を夏休みに集める課題もあったそうである。一つの科目だけでは時間が不足するが、科目の枠を越え、連携することで担当者の負担も減り、大きな成果が得られると感じている。

→指導教諭を中心にカリキュラムマネジメントを図る。複数の教科で「いっしょに読もう！新聞コンクール」の実践

④ 「読む」ことが中心で、「書く」「考える」活動につながっていない

朝ＮＩＥはどちらかというと、記事を読んで社会の出来事に関心を持つ狙いである。しかし、高校性の将来を考えた場合、志望理由書や自己推薦書を書かなければならない。そのためには、根拠となるデータの収集だけでなく、事実と意見を見分ける指導も重要である。

→朝ＮＩＥ、学校図書館、小論文指導のリンク

⑤ 新聞活用前後のアンケート調査

本校に通う生徒の実態を把握しておく必要がある。その上で、どのような取り組みが生徒にとって効果があるのかを調べ、学校として共有する必要がある。

→継続的なアンケート調査と項目の精選

４月当初にアンケートを実施し、実態を把握する。調査項目に関しては現在、係で検討中である。

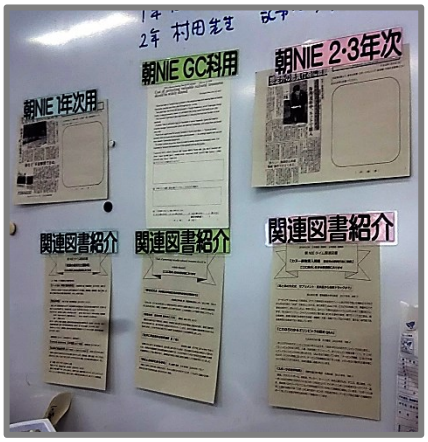
５．次年度に向けて

これまでの取り組みの反省を基に次年度は、特に「朝読書」「小論文」「ＮＩＥ」の三つをリンクさせる実践を行いたい。最近では、教科書の内容が理解できずに、日々の学習についていけない生徒も増加していると聞く。そのような生徒に対して、整理された新聞記事は有効な学習材である。複数の新聞を読み比べ、さまざまな視点で物事を捉える重要性や記事から物事の背景を深く考え、自分なりの

意見を持つことの重要性が考えられる生徒を別府翔青高校では育成していきたい。

また、本校の学校図書館が積極的に取り入れている「学びの技」などのシンキングツールを系統立てて使用することもこれからの生徒には必要と考えている。

今まで、個の力に頼ることが大きかったＮＩＥの実践であるが、データの蓄積を通して共通の理解を図りながらさらに発展させる形で次年度に継続する。



資料１

時期	内容	番号	実施または拠出教科
４月	シンキングツール（マッピング）の使い方	1	探究学習
	まとめ方（ポスターの書き方）、発表の仕方	27·29	探究学習
	図書館の使い方	5	国語（現代文）
５月	分類、配架、ＮＤＣマップ、目次、索引	６・７	地歴公民、探究学習
	５Ｗ１Ｈマップ	4	理科
６月	著作権、参考文献リスト、引用、要約	17·18·19	情報・ビジネス基礎
７・８月	まとめ方（新聞）、発表の仕方	27·29	探究学習
１０・１１月	ネットによる本校図書館蔵書検索と県立図書館蔵書検索と利用	8·13・14	英語
１１月	聞き方、質問の作り方	30	探究学習
１２・１月	論理的な構成の仕方、参考文献リスト	18·29	探究学習
	スキミング・スキャニング・クリティカルリーディング	20·21	探究学習
２月	聞き方、評価の仕方	30·31	探究学習
３月	探究プロセスの自己理解、学びの技定着の自己評価、相互評価	32	探究学習

資料２

探究ステップ	学び方のスキル	具体的内容	番号
課題の設定	①シンキングツールの活用	８マスマップ、マッピング ＫＷＹチャート、ＫＪ法、ＮＤＣマップなど	１
	②テーマを絞る	三点決め、同心円チャート	２
		国会図書館リサーチ	３
	③問いの作り方	８マスマップ、亀の子マップ、５Ｗ１Ｈマップ	４
情報の収集	①図書館図書利用	図書館の使い方(決まりやマナー)	５
		図書の分類と配架の仕組み、ＮＤＣマップ、図書の探し方	６
		目次と索引	７
		学校図書館蔵書検索 e-slip	８
	②さまざまなメディアの活用	レファレンスブック(百科事典等)の使い方	９
		新聞/雑誌/論文	１０
		CiNii(論文データベース)の活用	１１
		電子メディア(データベース、Web ページ)	１２
	③各種施設の利用	他の図書館の利用方法	１３
		ネットワーク(OPAC)を使った他館蔵書検索や図書借受	１４
		e-slip を使った本校図書館蔵書検索	８
	④さまざまな情報収集	フィールドワーク	１５
		インタビュー、アンケート、電話 メール等の方法、マナー、ルールなど	１６
整理・分析	①著作権	出典、資料リスト、参考文献リスト	１７
		参考文献リスト	１８
		引用/要約の仕方	１９
	②資料の読み取り	スキミング、スキャニング(ざっと読む)	２０
	③情報の評価	クリティカルリーディング (内容を評価しながら読む)	２１
	④情報の分析	シンキングツール	２２
	⑤仮説(主張)の立て方		２３
まとめ・表現	①まとめ方	プレゼンソフト	２４
		論文、レポート	２５
		アブストラクト(抄録)	２６
		ポスター/新聞	２７
	②論証・論旨構築の仕方	論理的な構成の仕方	２８
	③参考文献リスト		１８
	④プレゼンの仕方	しゃべり方、発表原稿の組み立て方	２９
	⑤聞き方	聞き方、質問の作り方	３０
		評価の仕方	３１
振り返り・考えの更新	①評価	探究プロセスの自己評価、ラーニングスキル定着の 自己評価、相互評価	３２
	②さらなる課題の設定		３３

ことばと向き合う、社会と向き合う

～職業観を育てるＮＩＥの実践～

別府溝部学園高等学校　教諭　田中　祐輔

１．はじめに

本校は戦後間もないころ、女子の自ら生きる力を育むための技芸学校としての教育を行ったのが始まりである。それ以降、普通科は進学のほか、情報ビジネス、福祉、ライフデザインコースに分かれ、それぞれの分野に特化した資格取得などを中心に学んでいる。また、食物科、看護科ではそれぞれ国家資格取得を目標にしている。

今後変化を続けていく社会に生きる生徒たちを育てるために、社会を知るすべとして新聞を活用することが、職業教育には必要不可欠なのではないかと考える。そこで、本校では特定の科に絞らず、普通科、食物科、看護科すべての学科・コースで新聞を活用する授業ができないかを模索したい。また、ＮＩＥという言葉が校内に広まってからまだ時は浅い。ここからどのように浸透させていけばよいか、という経過についても記録、報告していきたい。

２．実践の内容

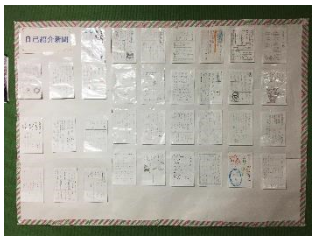
①　時期　４月

対象　１学年（普通科）

取り組み　「はがき新聞で自己紹介」

内容

はがき新聞を「自己紹介カード」として使い、クラスに掲示した。クラスにはその後しばらく掲示し、他者理解に生かすことができた。



専用のポケットに入れて、模造紙に貼り付けて掲示。

②　時期　５月

対象　３学年（食物科）

取り組み　ＮＩＥ研究授業「食品衛生」

単元名「新聞を活用し、消費者のニーズについて考える」

内容

「サラダ」に関する新聞記事を読み、そこからさまざまなライフスタイルの人たちに合ったサラダを考案する。調理をするに当たって、それを食べる人たちにはさまざまな背景があることを学ぶ。

校内の先生方に広く見てもらうことができた。ＮＩＥを校内に広める一端となることができた。

③　時期　５月～

対象　看護専攻科１年

取り組み　看護科ＮＩＥ授業実践

内容

看護専攻科（高校課程を修了し、国家試験に向けた実践的な学習をする）１年生に向けた新聞を扱った授業を実施。看

護・医療に関する気になる記事を選び、感想を書く。専用のノートを作成。

「天声人語」にて乳がんでなくなった芸能人に関する文章を読み、タイトルを付け、自由に論じる。合計３時間の実施。

アンケートの実施（後述）

④　時期　４月～

対象　１学年（普通科）

取り組み　総合学習「ＮＩＥエリア」

内容

エリア別学習を実施する「総合的な学習の時間」において、「ＮＩＥエリア」を今年度より設置。希望者は 24 人。

４・５月　好きな記事を切り取り、模造紙にまとめる

６月　同日の各社新聞を読み比べ、記事をまとめる

７月　天声人語を書き写し、感想を書く

⑤　時期　６月

対象　全学年全クラス

取り組み　学級力向上プロジェクト

内容

「ＮＩＥ研究会」で紹介のあった「学級力向上プロジェクト」について、生徒会が主となり、アンケートの実施を試みた。

アンケートの結果についてはグラフにしてクラスに配付。結果を基に７月に行った生徒会主催「リーダー研修会」で話し合い、データを活用した。

⑥　時期　９月

対象　３学年（普通科・食物科）

取り組み　ＮＩＥワークシート活用

内容

毎月第２土曜日に行われている「ＮＩＥ実践研究会」のワークショップにて紹介のあった、新聞の「人生相談」を用いたワークシートを活用し、国語表現の授業を展開。相手に合わせた言葉を選び、伝える力をつける目的。最終的にプロのライターが書いた実際の文章を読み、表現力の違いや、伝えたいことの根本を見つけ出そうとした。

⑦　時期　10 月

対象　有志

取り組み　大分県高等学校文化連盟「新聞研究大会」への参加

内容

新聞部がなく、今まで生徒会の「広報委員会」が不定期で発行してきた学校新聞をしっかりとした形にしてみたいと思い、有志を募って新聞専門部の研究大会に参加した。１年生普通科、食物科、３年生普通科、食物科合計８人の生徒が参加した。

参加前には事前研究として新聞記事の書き方、見出しのつけ方などを簡単に説明し、校内で取材活動の練習をした。

本番当日は「地域密着」というテーマのもと、実際に大分市内の商店街に出てインタビューを行い、原稿用紙２枚分の記事を書いた。賞をもらうことはできなかったが、今後の活動につなげられるような手応えがあった。

⑧　時期　10 月
対象　新聞研究大会参加者
取り組み　校内新聞の作成
内容
　新聞研究大会参加者の練習として、また、ここから本校の校内新聞を形作っていきたいという思いで校内新聞を作成した。
　「ＮＩＥ実践研究会」で紹介のあったパソコンで新聞の編集ができるソフト「パーソナル編集長」を購入してもらい、生徒が作成した記事を報告者がまとめ、発行する。文化祭に合わせて「文化祭特集号」を作るイメージでいたが、当日の発行はできなかった。
　これからも定期的に発行し、来年の新聞コンクールに出品を目指したいと思う。

⑨　時期　12 月
対象　専攻科１年（看護科）有志
取り組み　切り抜き新聞の作成
内容
　授業で継続して新聞の切り抜きなどを行ってきた結果、生徒から進んで「おおいた切り抜き新聞グランプリに応募したい」と申し出があり、数人が独自に作品作りに取り組んだ。内容は看護にまつわる命や医療に関わったもので、自分たちの今後の目標や「看護観」についてまとめている。

⑩　時期　１月～
対象　１学年（食物科）
取り組み　ＮＩＥワークシートの実施
内容
　大分合同新聞社のホームページにあるＮＩＥワークシートを、毎回国語の授業の初めに取り組んでいる。「アミュプラザ」に関する記事や「インスタ映え」など、高校生の話題になりやすいものを選び、さまざまな意見を話し合ってから授業を開始するようにした。

⑪　時期　11 月～２月
対象　１学年、３学年（普通科・食物科）
取り組み　新聞の見出しを使って五七五
内容
　「新聞の読み方に慣れよう」という目的で、３学期に数回新聞を使った授業を実施（現代文・国語表現）。
　見出しについての授業を展開する中で、新聞記事、および新聞広告の文字を使った五・七・五を作ろうという授業を実施した。「家に新聞がない」という生徒がほとんどで、新聞を使った授業というものに対して初めは面倒くさそうな様子でやっていたが、あっという間に時間が過ぎてしまうという感じで、楽しんで取り組んでいた。

〇今後の展開計画について

　本年度は「ＮＩＥ実践指定校となったらどんなことができるようになるか」という事も含めて手探りの状態で展開してきた。まずは実践研究会で学んだ取り組みをできるだけ多く学校に取り入れてみよう、その中で本校にあったやり方、やり通していきたいものを選んでみようという考え方で実践をしてきた。
　来年度はここから生まれる仮説のもと、実践・研究を行うことで本校のＮＩＥの展開の指針を作っていきたい。

３．環境整備

① 書架の設置

５月に玄関フロアから職員室へ向かう廊下の一角に「ＮＩＥコーナー」を設置。書架に直近５日分の新聞を掛けるほか、閲覧用の机を常備することで、生徒の目に触れやすいようにした。

しかし､新聞を毎日掛ける係の教員など、担当の割り振りがされていなかったので、一部の先生の負担が多くなってしまった。来年度は分掌に組み込むなど新たなやり方が必要だと考える。

② アンケートの実施

看護専攻科に対して「新聞に関するアンケート」を取った。看護専攻科は高校３年の課程を修了した後に国家試験対策のために学習をしているクラスである。

・新聞を家庭でとっている人　57%
・普段から新聞を読んでいない人　80%
・新聞を読むことが「好き」　37%

授業で新聞を扱うことに関しては「語彙力、文章能力などの向上｣｢社会的知識の獲得」のほか、「小論文試験に最適」「最新の医療の情報を得るのに役立つ」など、ＮＩＥ授業に対する期待度は高い。

来年度は看護専攻科だけでなく、より多くのクラスにアンケートを実施し、生徒の実態把握に努めたい。

４．成果と課題

取り組みを行ってきて強く感じているのは、｢生徒たちの意欲的な姿勢」である。授業に対して向き合う姿勢が良くなった生徒が数え切れないほどいる。課題の提出に関しても､｢突っつかなくても出る」ということに感動した。また、笑顔や真剣に考える姿、友達同士で時事問題を話し合いながら行う中にも今までになかった新しい顔が見られるようになった。

ＮＩＥの取り組みが校内でも浸透してきたと感じることも多くなってきた。生徒が作った作品などについて教員同士で話題にしたり、生徒たちとの語らいに使われたりすることもあった。

目標としては特定の誰かが行うＮＩＥではなく、誰もがアイデアを考えられるような環境をつくることである｡｢看護の授業で新聞記事を使いたい｣｢食物に関しての記事をまとめさせたい｣など､いろいろな学科・コースで新聞が活用されるように、校内に広めていきたい。

新聞を通して考える　社会と自分

～新聞を進路目標設定（進路学習）に生かす方法を探る・３年目～

大分県立大分舞鶴高等学校　教諭　小坂　吏香

１．はじめに

本校は、スーパーサイエンスハイスクール（ＳＳＨ）第３期の指定を受け、また、ラグビー部をはじめとして全国大会に出場する部活動も多い。意欲的な生徒が集まり、高いレベルでの文武両道を目指す学校であるが、自分が生きている現代社会で何が起きているのかということを、あまり知らぬまま、考えぬままに過ごしている生徒が大半であった。

学んでいることが社会にどうつながっているのかを発見し、自分自身の進路目標を設定するための一助となるように、また、本校が育成したい力としている「社会の変化にたくましく対応できる生きる力」を育むためにも、ＮＩＥ実践指定を生かしたい。その思いでの試行錯誤の３年間であった。

大学入試に関わる教科指導とともに、社会に目を向け、自分自身の学びがどこへ向かうのかを考えさせながら指導すること、大学入試に対応する学力をつけるための各教科の学習指導計画に支障をきたさないこと、学年部の協力を仰ぐこと（教員の連携）などを心掛け、65 回生（現３年生）を中心に取り組みを行ってきた。

【実践の目標】

1　新聞を通して、生徒の社会への関心、読解力、思考力、表現力を養成する。
2　生徒が自発的に新聞を調べ、進路目標の設定及び達成に資するものとする。
3　学年、複数教科、図書館等の連携の取れた組織体制を構築する。

２．実践の内容

通年	（1）ＮＩＥコーナーの設置 （2）コラムの比べ読み （3）気になる記事の紹介（クラス） （4）新聞記事のスクラップ「思考の種ノート」（文系）
授業	（5）新聞社発行のワークシートの活用 （6）３年１組国語表現（週２コマ）
随時	・「いっしょに読もう！新聞コンクール」への応募 ・意見文の投書　など

３．実践の報告

（1）ＮＩＥコーナーの設置（渡り廊下※掲示板有り）生徒の活動が載った記事の切り抜き「舞鶴魂の体現」や読ませたい記事の掲示を行っている。２学期途中からは、進路決定者にコーナーの管理を任せた。

（2）コラムの比べ読み

平日、朝日・毎日・読売のコラムのプリントを配布し、週末、１コラムずつを選んで感想意見を書くとしていたが、２学期からは、平日毎日、感想意見を記入して提出するようにした。全クラスで継続した。

（3）記事の紹介※担任クラスのみ

前日の新聞からクラスメートに紹介したい記事を切り抜き、朝礼時、発表する（１分間スピーチ)。切り抜きを貼ったワークシートは教室内に掲示。回を重ねる毎に、時事問題だけではなく、メッセージ性の強いものを選ぶ傾向が見られた。

（4）新聞記事のスクラップ「思考の種ノート」

〈方法〉

①自分の志望する学部学科に関連する記事を一つ選び、切り取ってノートの左ページに貼る。

②新聞記事を読み、大事な点にマーカーでラインを引く。

③ノートの右ページに次の各項目を書く。

・要約（100 字程度）

・意味調べ（インターネット利用も可）

・感想（100 字程度）

・質問…新聞記事を読んで分からないこと、知りたいことを箇条書きで書く。（チェック時に解答。必要があれば、他の先生にも回し、回答してもらう）

〈対象〉国語表現・現代文担当文系クラス

※看護志望者で自主活動グループ発足

（5）新聞社発行のワークシートの活用

授業の隙間（授業進度に余裕のあるとき。１回 15 分程度）に取り組む。採点及びクラスメートの意見の紹介を裏面にコピーし、返却する。

（6）３年１組国語表現

①「君たちはニュースキャスター～新聞の１面記事を解説しよう～」（１学期実施）

↓

「君たちはニュースキャスター (Returns) ～新聞記事から 10 年後を大予想～」（２学期実施）

〈学習活動〉

①10 ジャンルに分かれ、生徒たちで解説したい新聞記事を選ぶ。

②その記事で扱われている事柄について、10 年前の状況・状態も調べる。

③現在の状況と比較し、10 年間の変化の度合いを把握する。

④10 年後の未来がどうなっているかを予想し、分かりやすくみんなに伝える。

〈生徒が選んだ記事〉

ジャンル	見出し	日付 新聞
科学	iPhone10 集大成船出	2017/11/4 日経
法律	18歳選挙権 世界と足並み	2015/6/18 日経
政治	クロマグロ資源回復へ	2017/11/12 合同
国際	北朝鮮ミサイル日本通過	2017/9/15 合同
教育	いじめ最多32万件	2017/10/27 合同
文化	アニメ 大人が夢中	2017/10/25 合同
地域	農林水産業への就業増	2017/5/13 合同
スポーツ	ひねりの極み 白井3度目金	2017/10/9 朝日
福祉	医療と介護 一体で提供	2017/7/28 日経
医療	「免疫」治療 新薬に効果	2017/10/8 毎日

２回とも、当該クラスだけの発表会ではなく、聴衆として２年１組生徒と 10 人弱の先生にも参加してもらった。発表にはつきものの、緊張・事実誤認・調査＆論証不足・発表方法の選択ミスなど、反省すべき点もあったが、新聞によく目を通し、一生懸命に調べて考えて、分かりやすく伝えようとする姿勢は、聴衆の生徒からも先生方からも高く評価された。発表者も聴衆も、誰もが楽しく参加できた活動であった。

②400 字意見文

「最近のニュースで感じたこと」（１学期実施）

「10 年後の未来について考えたこと」（２学期実施）→投稿

③活動を振り返る「はがき新聞」作成

県総体編（１学期実施）…全校生徒 対象

受験編（３学期実施）…２年私文コース 対象

県総体編はNIEコーナーに、受験編は2年1組に掲示。

掲示から2年1組への説明まで、すべて生徒の手で行った。

④「先生方の『高校生の頃』をインタビュー～『ひと』欄に学び、文章にまとめよう～」（１学期実施）

⑤「志望理由書を書こう」（２学期実施）

⑥ディベート（３学期実施）

テーマに対する賛否の立場を主張するための論拠として、必ず新聞記事を用いることを条件にした。センター試験後の授業改変で、１組担任の先生や地歴公民の先生に入ってもらいながら、行うことができた。

〈生徒感想１〉

私は出生前診断についての班だったが、命に関わることだし、デリケートな問題だったので、とても悩んだ。しかし、インターネットや新聞を使って情報を集め、仲間と話し合ううちにまとまっていくのが面白かった。また、それと同時にインターネットの便利さと、便利だからこその、情報の取捨選択力が大切なのだと分かった。

実際にディベートをしてみて、自分たちの意見を伝え、それに納得してもらう難しさが分かった。もう少し集めた情報の理解を深めていれば、臨機応変に対応できたのではないかと悔やまれる。また、仲間との意識の統一をしておくことも必要だった。他の班のディベートを見ていて、みんなよく調査していたが、人を納得させるには、明確な根拠（数値とか）が必要だと分かった。

クラスメートの真剣な姿を見られたし、自分自身も各テーマについてしっかりと考えることができたので良かったと思う。今回の授業でたくさんのことを学ぶことができて、良い機会となった。これから大学や社会に出て、同じようなことがあると思うが、今回の経験を生かしていきたいと思う。忘れないようにしたい。

〈生徒感想２〉

今回の活動を通して非常に考えさせられたことは、自分の意見ばかりにとらわれてはいけないということです。他の班のディベートを聴いていて、いろいろな角度からものを考えると、「確かにそうだな」と思わされることが多くありました。中でも、出生前診断を禁止すべきかという論題では、やはり経済力がないとダメだと思いましたが、禁止すべきだと肯定する側から、命の選別はいけないということ、何よりも命を大切にすべきだという意見が出て、深く考えさせられました。「障がい者に対する理解を深めることが一番大切だ」という主張には感銘を受けました。

自分たちの班では、調べるという作業を入念に行ったのが功を奏しました。反論をすぐに出すことができました。

３年間、新聞を通して勉強してきて、最後に良い形で考えを深めることができて良かったです。いろいろな情報を収集することも大切だし、どれを信じるかという判断も簡単なものではなく、慎重にするべきだということも分かりました。

何より最後にクラスのメンバーでこのような活動ができて楽しかったです。ありがとうございました！

４．成果と課題

実践指定を受けて３年間がたつ。目標とする１～３が達成できたかどうか、甚だ心許ない。しかし、進路を考えていく面談の中で、１・２年次のＳＳＨ探究講座での学習を通して、地域創生の方向へ進みたいと語る生徒や、「思考の種ノート」の取り組みから現在の教育に関する問題を知り、それを少しでも解決できるような教員になりたいと語る生徒が、確かにいる。これまでの活動が実を結んだのかどうかは、今後、分かってくるのだと思われる。

この３年間、コラムの読み比べでは各クラス担任と連携し、生徒に取り組ませることができたものの、他の活動については、局所的にならざるを得なかったことが残念である。学年団や学校全体には、新聞活用の効果と必要性への理解があるのは確かである。しかし、教科横断的に、組織的に取り組むという機会の少なさは、いかんともし難い。

同様に、新聞を読み社会に目を向け、自分の学びが何に通じていくのかということを考える必要性を、生徒はある程度は理解している。しかし、日々の教科学習や部活動のために時間を使い、考えることを後回しにしてしまいやすい。

2020 年度、これまでのセンター試験に代わり、大学入学共通テスト（いわゆる「新テスト」）が導入される。学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を多面的・総合的に評価するものとなる。その新テストに挑む生徒たちが、この春、新１年生として入学してくる。新聞活用は「主体性」「協働性」「学問への興味・高校での学びの充実」などを喚起する手段の一つとして、間違いなく有効である。なおかつ、楽しい。高校３年間の中で、各教科やＳＳＨ探究（≒総合的な学習の時間）において、どれだけ系統的・発展的に取り組ませていけるかが課題である。今後、この３年間の経験を踏まえ、本校でのＮＩＥ活動をさらに充実させていきたいと考えている。

■　活発な活動続ける「ＮＩＥ実践研究会」

昨年度「50 回」の節目を迎えた教員の自主研究組織「大分県ＮＩＥ実践研究会」は本年度も活発な活動を続けました。8 月の第 58 回研究会では、初めての試みとして大分、熊本、宮崎 3 県の「ＮＩＥ合同合宿研修」を実施。10 月には「60 回」を記念して「ＮＩＥ子ども会議」を開催しました。

8 月 19 日に由布市湯布院町であった合宿研修はＮＩＥネットワーク熊本、ＮＩＥみやざきの両研究組織と共催。計約 20 人が参加しました。

「ＮＩＥ合宿研修」でのワークショップ

日本文理大学の高見大介・人間力育成センター長の講演の後、熊本市三和中の田中慎一朗教諭、宮崎市広瀬中の下田睦夫教諭、大分市鶴崎小の佐藤由美子校長の 3 人が実践発表。熊本日日新聞社の越地真一郎ＮＩＥ専門委員によるワークショップや懇親会もあり、交流を深めました。

ＮＩＥ子ども会議は「第 21 回ＮＩＥ全国大会大分大会」を記念して 2016 年に初めて開き、今回が 2 回目。10 月 14 日、大分市で開きました。県内の小中学生 6 人が登壇し、大分市舞鶴小の平山立哉教諭の司会で▽心に残るＮＩＥの活動や授業▽ＮＩＥを通じて身に付いた力や役に立ったこと▽今後新聞とどう付き合い、人生に生かすか―の三つのテーマで意見交換。「ＮＩＥに触れたことでニュースを見るようになり、漢字を読む力もついた」「新聞を、将来働いたり、生きていくための原動力にしたい」などの意見が出ました。

活発な意見が出た「ＮＩＥ子ども会議」

研究会ではこのほか毎回、各地の教員や学校司書が実践事例を報告。県ＮＩＥ推進協議会の堀泰樹会長（大分大学教育学部教授）、ハイパーネットワーク社会研究所（大分市）の渡辺律子副所長ら多彩な顔ぶれによる講演もありました。

■　2会場で大分県ＮＩＥセミナー

授業や教育活動での新聞活用について学ぶ、大分県ＮＩＥセミナーを、本年度は11月に別府市と大分市の2会場で開きました。

16日に県立別府翔青高校で開かれた「別府会場」には教員や教育行政関係者ら約40人が参加。同校の1年生を対象にした、畑野新司教諭の「情報」と、佐藤匡介教諭の「現代社会」の二つの公開授業が行われました。

ＮＩＥセミナー別府会場。「情報」の公開授業

「情報」の授業では、「働くことの意味」をテーマに、問題解決のための情報を収集、整理する材料として新聞を活用。働く人の思いに迫った連載記事からキーワードを抜き出し、働く意味についてグループで考えました。

「現代社会」では、地方自治や地域活性化策を身近な題材から学ぶため、夏に多くの来場者を集めた「湯～園地」の事後検証記事を活用。この企画が成功した理由や今後の別府市活性化への課題を記事で調べ、オリジナルの活性化策を意見発表しました。高田中（豊後高田市）山香中（杵築市）別府溝部学園高（別府市）大分舞鶴高（大分市）の実践指定校4校が実践報告しました。

28日に大分市の市立鶴崎小学校で開かれた「大分会場」には約70人が参加。公開授業では荒木尚美教諭が2年生、池田里奈教諭が3年生のクラスで国語の授業を、本松健一教諭が5年生の社会の授業を行いました。

ＮＩＥセミナー大分会場
２年生の公開授業

2年生は新聞写真から各自が連想して創作した物語を班や学級で発表。3年生は新聞記事中の単語を辞書で調べながら言葉の機能を学びました。5年生は情報の有効活用を学ぶ一環として「新聞の良さと課題」「新聞とこれからどう関わるか」をテーマに意見発表。鶴崎小、山口小（中津市）東中津中（同）の実践指定校3校が実践報告しました。

＜発行＞2018 年 3 月
大分県NIE推進協議会　事務局
〒870-8605　大分市府内町 3－9－15　大分合同新聞社 NIE 推進部内
☎097-538-9729　fax097-538-9810　✉nie@oita-press.co.jp